

Kawasaki

保存版

JETSKI
watercraft

750
SXⁱ Pro

ウォータークラフト

JETSKI
watercraft

取扱説明書

JET SKI は川崎重工業株式会社の登録商標です。



カワサキは人と地球にやさしい環境作りをめざしています。

環境保護について

いつまでもきれいな環境を保つために、次の事を守って下さい。

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。(不法投棄は絶対しないで下さい)。
- 燃料、オイル等で浜辺や海岸、そして水を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や、生物を大切にしましょう。
- 使用済みのバッテリやエンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないで下さい。また将来ジェットスキーを廃棄される場合も同様です。もし、これらのものを廃棄する時は、“ジェットスキー”の販売店にご相談下さい。

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”をご購入下さいましてありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させて下さい。

この取扱説明書は、あなたのウォータークラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得して下さい。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、ウォータークラフト“ジェットスキー”的魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守って下さい。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています。

▲警告

- 取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

- 取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

(要点)

- 作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

目 次

主要諸元	3
一般事項	5
製造番号	5
各部の名称	6
ラベル位置	8
燃料及びオイル	13
操縦装置	14
エンジンフード	19
小物入れ	21
工具	21
操縦方法	22
安全な操縦	22
積載	27
乗る前の点検項目	27
ならし運転	30
エンジンの停止	30
エンジンの始動	31
発進	34
停止	38
旋回	40
ウォータークラフト"ジェットスキー"の乗り方	43
航走終了後の手入れ	46
特殊な手入れ	47

保 管	54
保管する前の作業	54
保管後再使用する前の作業	58
整備と調整	60
定期点検整備表	60
コントロールケーブルの調整	62
燃料系統	66
スパークプラグ	69
バッテリ	70
潤滑	72
冷却系統の洗浄	74
ビルジ系統の洗浄	76
トラブルシューティング	78
船舶検査	81
航行区域	83

主要諸元

ウォータークラフト“ジェットスキー”JS750-C4

エンジン	
型 式	2ストローク、2気筒、クランクケースリードバルブ、水冷
排気量	743 cc
内径×行程	80.0×74.0 mm
圧縮比	7.0 : 1
点火方式	CDI (デジタル)
燃料／潤滑	ガソリン・オイル混合 混合比 60:1
キャブレタ	ミクニ BN40-38×2
始動方式	スタータモーター
スパークプラグ	NGK BR8ES
ギャップ	0.7~0.8 mm
端子形状	一体型端子
点火時期	上死点前13° @1,250 rpm~20.2° @4,000 rpm
動力伝達機構	
カブリング	エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ：型 式	軸流、単段
：推 力	285 kg
ステアリング	ステアリングノズル
ブレーキ	水の抵抗力

※性 能	
連続最高出力	72 PS/6,500 rpm
連続最大トルク	8.7 kg-m/5,750 rpm
最小旋回半径	2.9 m
燃料消費量	31 ℥/h (フルスロットル運転時)
航続距離	37 km (フルスロットル運転時)
航続時間	29分間
寸法・重量	
全 長	2,210 mm
全 幅	700 mm
全 高	680 mm
乾燥重量	155 kg
燃料タンク容量	15 ℥ (予備2.3 ℥を含む)
電装品	
バッテリ	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

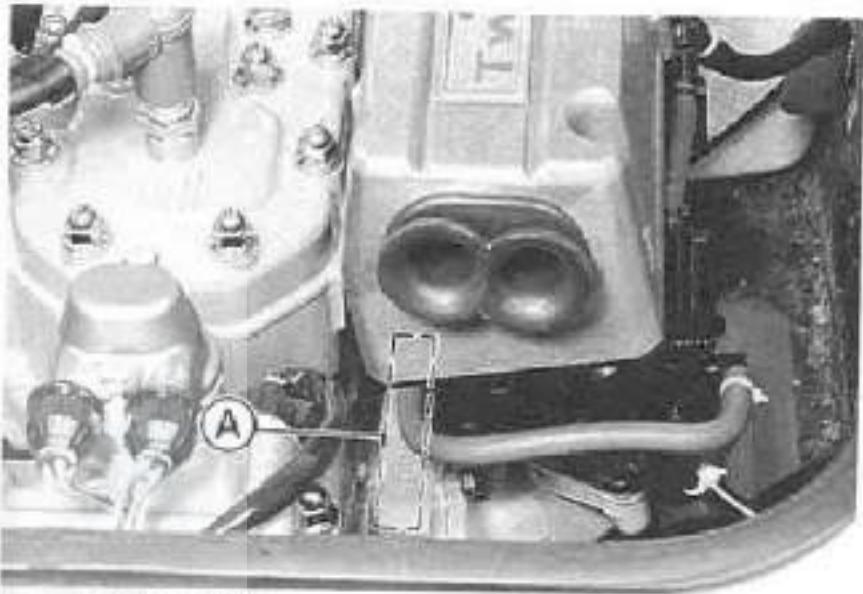
一般事項

製造番号

- 船体及びエンジン番号は、あなたのウォータークラフト“ジェットスキー”を表す番号です。この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。
下のそれぞれの空欄に記録して下さい。



A. 船体番号



A. エンジン番号

エンジン番号	
--------	--

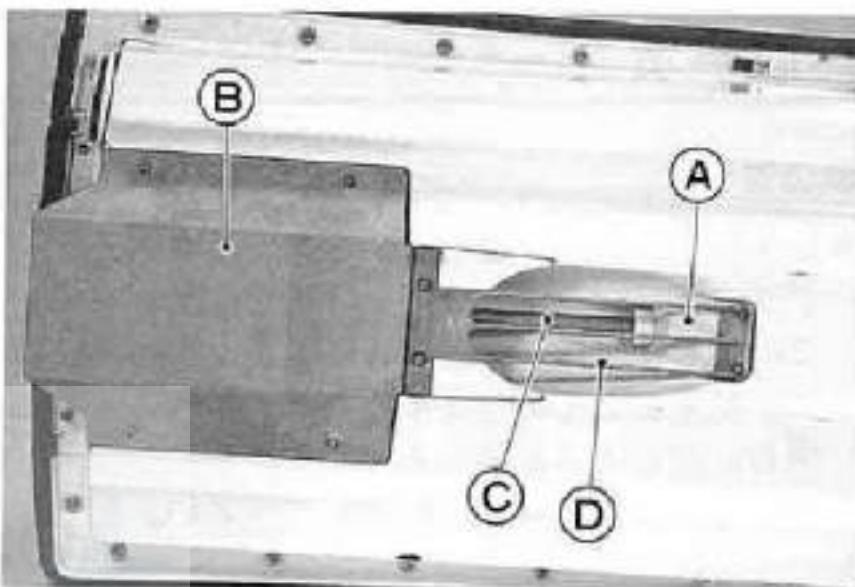
船体番号	
------	--

各部の名称

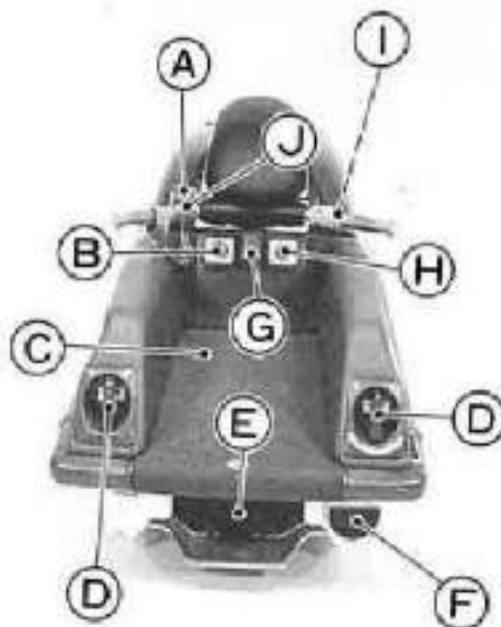


- A. ハンドルバー
B. ハンドルポール
C. エンジンフード

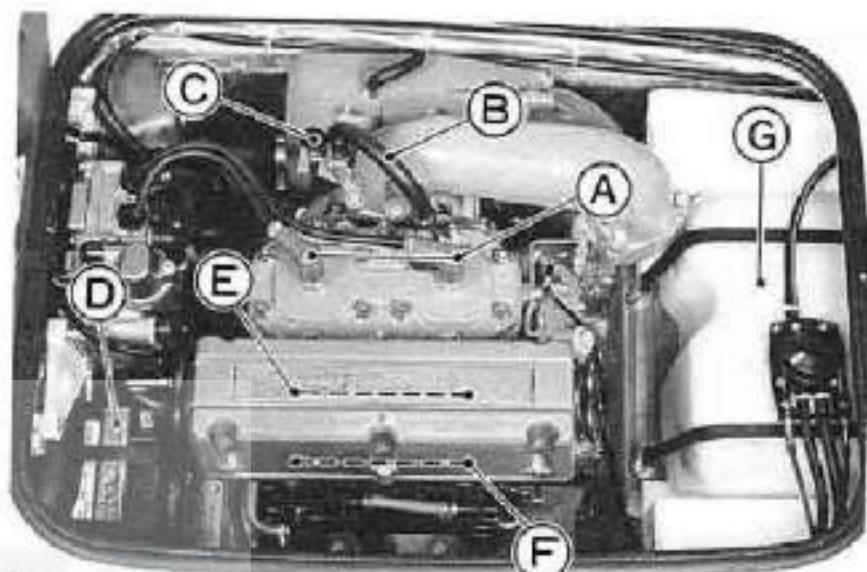
- D. 燃料注入口カバー
E. バイパス出口



- A. 吸水孔
B. ジェットポンプカバー
C. ドライブシャフト
D. 格子

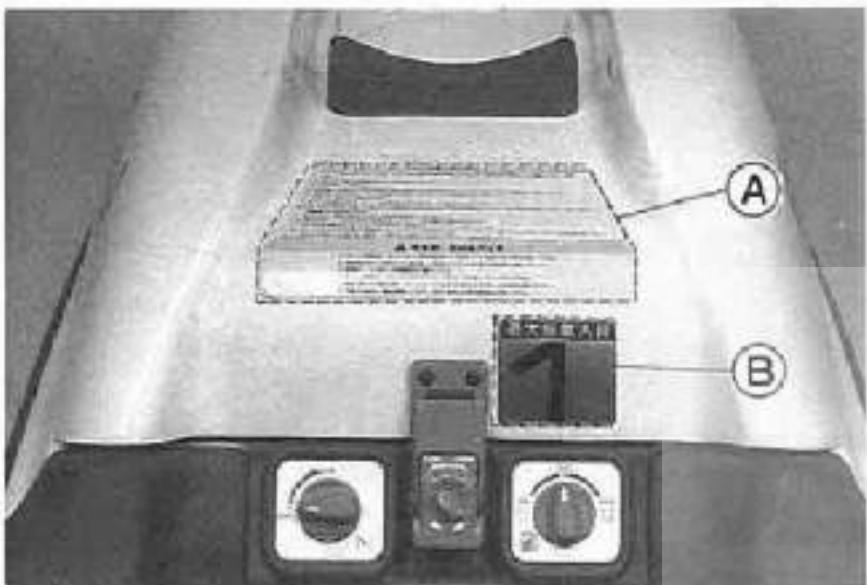


- A. エンジンスタータ、ストップボタン
- B. チョークノブ
- C. 乗船位置（デッキ）
- D. 小物入れ
- E. ステアリングノズル
- F. 排気孔
- G. エンジンフードラッチ
- H. 燃料バルブ
- I. スロットルレバー
- J. キルスイッチコード



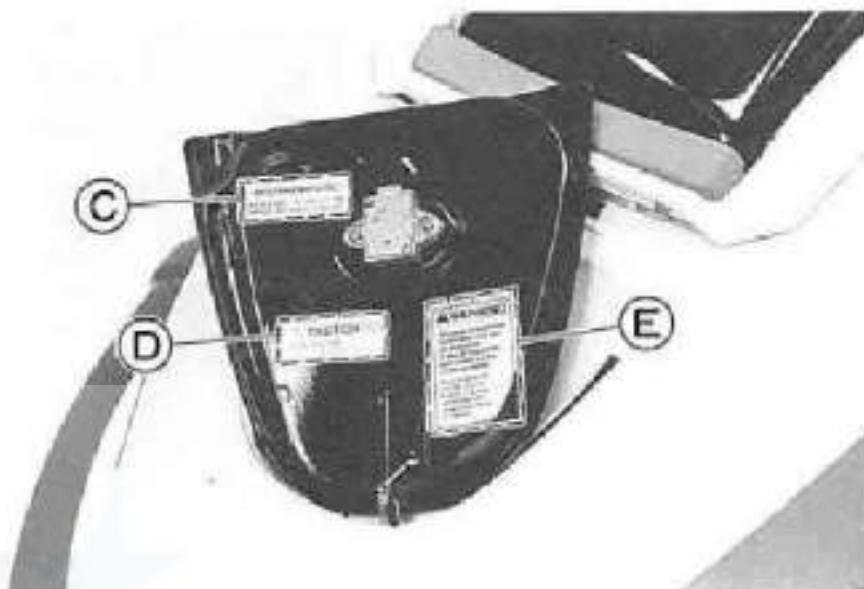
- | | |
|-------------|-------------|
| A. スパークプラグ | E. フレームアレスト |
| B. クーリングホース | F. キャブレタ |
| C. ドレンバルブ | G. 燃料タンク |
| D. バッテリ | |

ラベル位置



A. 操縦時の注意及び航走前、航走後の注意

B. 最大搭載人員



C. 推奨オイル

D. 推奨混合比

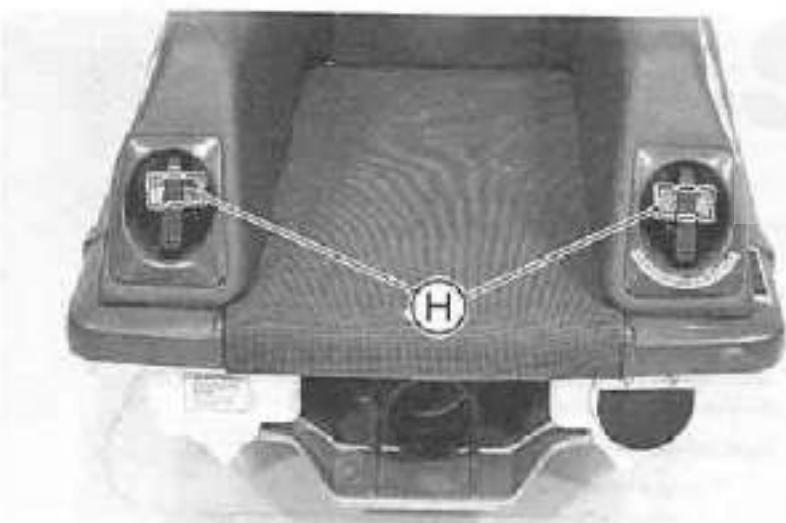
E. 燃料注入



F. オーバーヒート (水上)



G. オーバーヒート (陸上)



H. グリップ

(A)

▲ 警 告

ウォーターカラフトを安全に走行いただくために、次の事項を必ず守りください。

- 運転者は、JCII(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。
- 案内者は身体を保護できる衣服を着用してください。萬水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。
- シューズ、半そつ、ゴアガード(保護靴)を着用してください。
- 航海には、JIS小型船舶操縦士免許以上が必要です。海上免状を持って運転してください。
- 操縦者が落水したときにエンジンが停止するようキルスイッチコードを手首につけ、ハンドルバー間に巻きないようにしてください。
- 下船後は子供や他の人が使えないようにキルスイッチコードをウォーターカラフトから外してください。
- 自分の技術次第をよく知り、無理な操作はしないでください。
- 自分の技術次第を組んだ底面をすると、思い通りに操作できなかったり、落水や萬死の可能性が増大いたします。急旋回や走行ジャンプは危険、禁止、足を止める少し所を横断あるいは昇降する恐れがあります。ジャンプは行わないでください。
- ウォーターカラフトの操作に慣れないときはスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。スロットルを開けると、ジェットノズルから噴出される水や異物だけがかかる恐れがあります。
- エンジン運転中にジェットポンプの吸込口に近づかないでください。長い髪、たぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、墜れたりする恐れがあります。
- 泊中からの貴重品は荷物が受けられる所以ので、高率く盗り込んで、立ち上がるかひざをついて盗難を防いでください。
- 飲酒や薬物の服用後は絶対に運転しないでください。
- 防犯装置を必ず付けて、よく理解してからご活用ください。



▲ 警 告

エンジンを始動する前に、エンジンルームの換気をして下さい。
変化したガソリンがエンジンルーム内にたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

▲ 警 告

ウォーターカラフトの暴走では衝突が多くの原因にながっています。
次の事項を守り、衝突防止に努めてください。

- 周囲の漁業者、障害物、船舶に避けず注意してください。
- 自身の世界が広げられている場合、あるいは他の人から見えない位置にいる場合は特に注意してください。



- 逃走者、障害物、周囲の船舶等から逃走できる安全な速度、距離を保って航海してください。
- 特別ウォーターカラフトや船頭船の走行を避けてください。
- 用意のものに迷いなく掛かるような距離まで近づかない。
- 航空機など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航空はしない。
- 航道や航路等のある水域は航行しない。
- 初めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。
- ウォーターカラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はあります。
- 駆動力を切るときはスロットルレバーを戻さないでください。方向を変えるためにはスロットルレバーを操作して推力を確保することが重要です。航進前には、スロットルレバーとステアリングが正しく作動することをいつも確認してください。
- 航向規則、地域の条例や規則を必ず守ってください。
- 運転装置はできません。
- 運転者の近くや、船舶の往来が激しい区域では航行しないでください。

注 意

- 走行する前に、ガソリンの量や、バッテリーの充電量をよく調べて下さい。
- 船体を横方向に傾けるときは、水がエンジンへ侵入するのを防止するために必ず左方向に傾けて下さい。

00013-301

56070-3923

④

最大搭載人員



56030-3773

⑤

注意

推奨混合比

ガソリン 60:1 オイル

56070-3856

⑥

▲推奨オイル

カワサキ純正2サイクルオイル
又は、2サイクル専用オイル

56030-3764

⑦

警告

燃料を入れる時は、エンジンを止め、通気性の良い、火気のない場所で行って下さい。

56070-3788

⑧

注意

エンジンがオーバーヒートすると、警告装置が働き自動的にエンジンの回転が下がります。航走中にエンジンの回転が低下したら、ただちに岸辺に戻りエンジンを停止して下さい。冷却系統を点検し修理が終わるまでは、ウォータークラフトを操縦しないで下さい。

56070-3791

(G)

注 意

ウォータークラフトを水から引き揚げた状態では、エンジンを高速で回転させないで下さい。また、運転して15秒以上運転しないで下さい。エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

58070-3793

(H)

注 意

グリップをもってウォータークラフトを持ちあげたり、グリップにロープ等をかけないで下さい。

58070-3792

燃料及びオイル

- 燃料は、ガソリンとエンジンオイルとの混合油を使用します。

- ・ガソリン.....レギュラーガソリン
- ・エンジンオイル...カワサキジェットスキー純正
オイル (2サイクルエンジンオイル)
- ・推奨混合比.....60:1
(ガソリン:60対エンジンオイル:1)

ガソリンとオイルは十分に混合しておきます。

注意

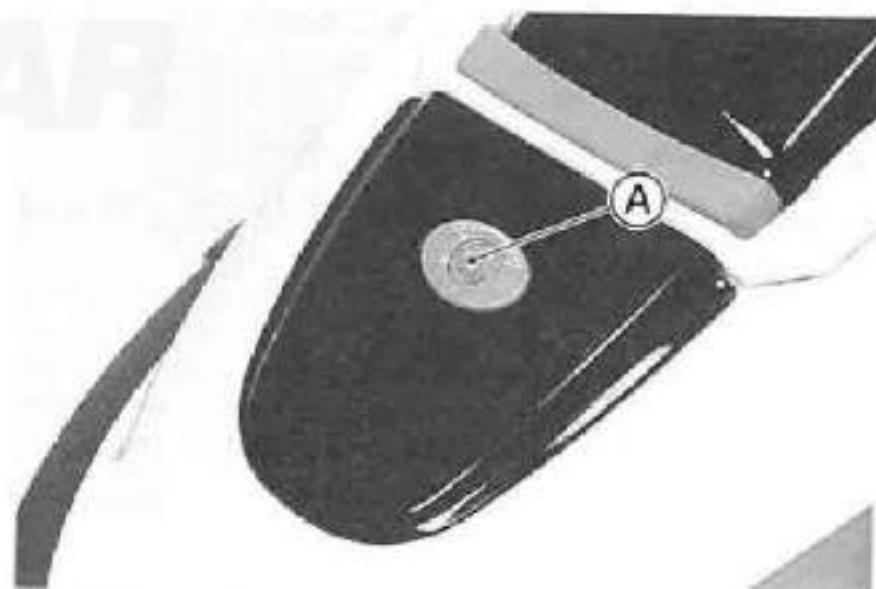
○レース用ガソリンや添加物等、規定以外のものは使用しないで下さい。エンジンの故障の原因になります。

燃料の注入

▲警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタートロックスイッチを左位置にし、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- 燃料注入口カバーのノブを右へ回し、カバーを後方へ引っぱって外します。



A. 注入口カバーノブ

- 燃料注入口キャップを外し、推奨混合比の燃料を注入して下さい。注入する時は、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。
- 燃料の注入は必ず注入口上部から100mm位までの量にして下さい。

▲警告

○燃料をタンク一杯に注入しないで下さい。
温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、
ペントチューブから溢れる事があります。
注入後はキャップを確実に締めて下さい。

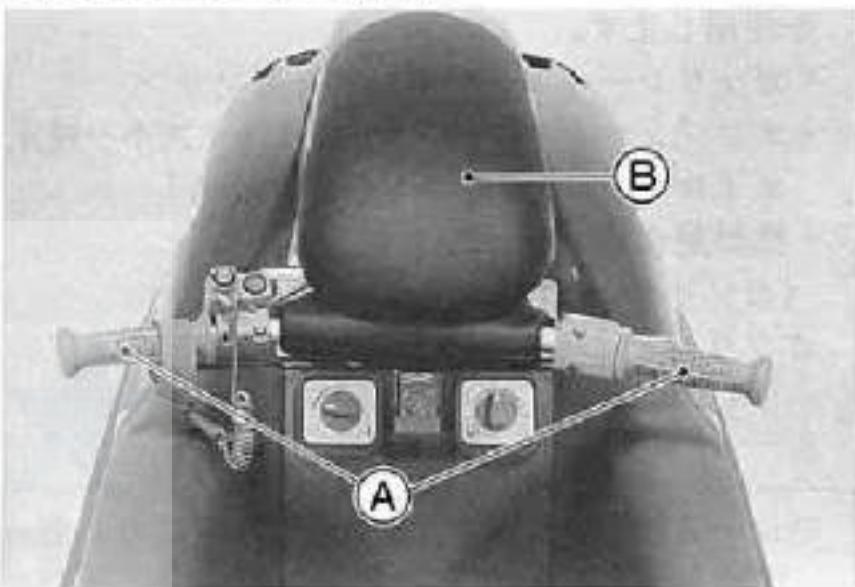
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気して下さい。

▲警告

○氹化したガソリンがエンジン室内にたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

操縦装置

ステアリングハンドルバー



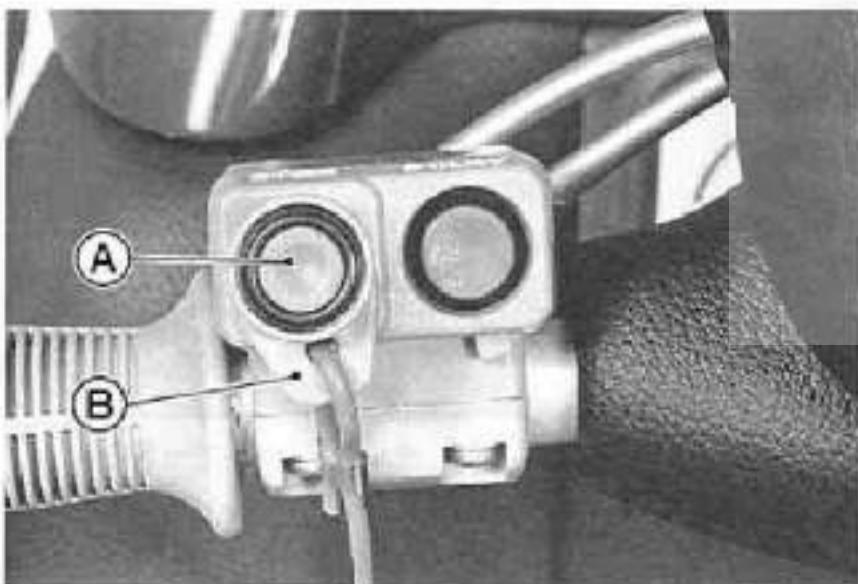
A. ハンドルバー

B. ハンドルボール

- ステアリングハンドルバーはハンドルボールの端のピボットに取付けられており、自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いている時ののみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータークラフトを旋回させる事が出来ます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータークラフト後部のステアリングノズルとつながっています。

ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。
- 下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータークラフトから外して下さい。



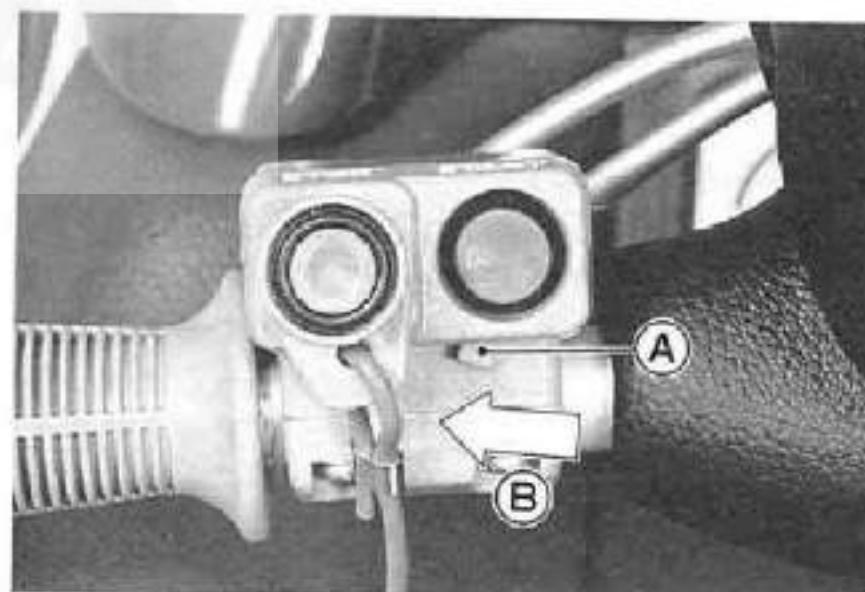
A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

スタータロックスイッチ

- スタータロックスイッチは不用意な始動を防止するもので、スイッチが右位置にある時のみ緑色のスタートボタンを押すとエンジンが始動します。スイッチが左位置にある時はスタートボタンを押してもエンジンは始動しません。

▲警告

○不用意にエンジンが回転し、事故が発生するのを防ぐために、エンジンが回転していない時は、常にスタータロックスイッチを左位置にしておいて下さい。



A. スタータロックスイッチ B. 始動不可能位置



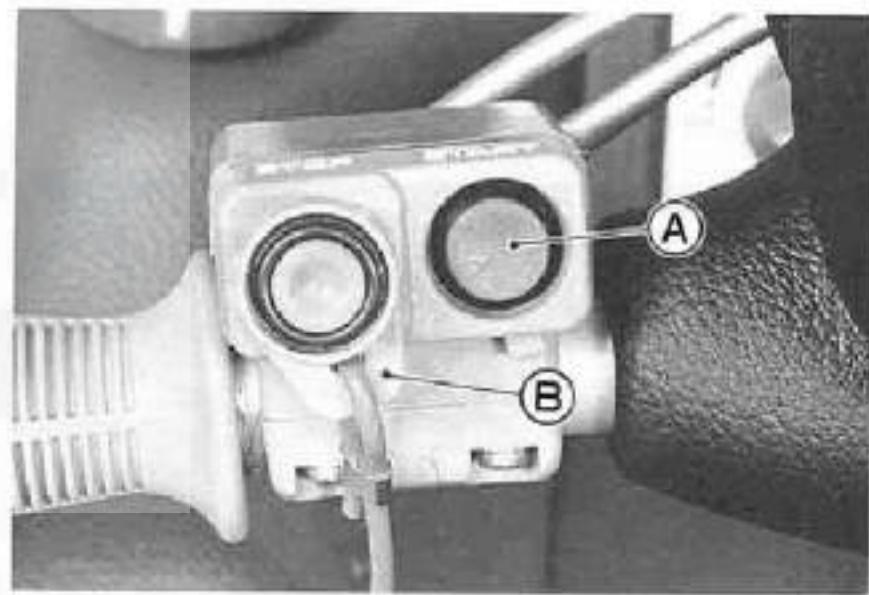
A. 始動可能位置

スタータボタン

- スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と上方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放して下さい。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転しますが、始動しません。

注意

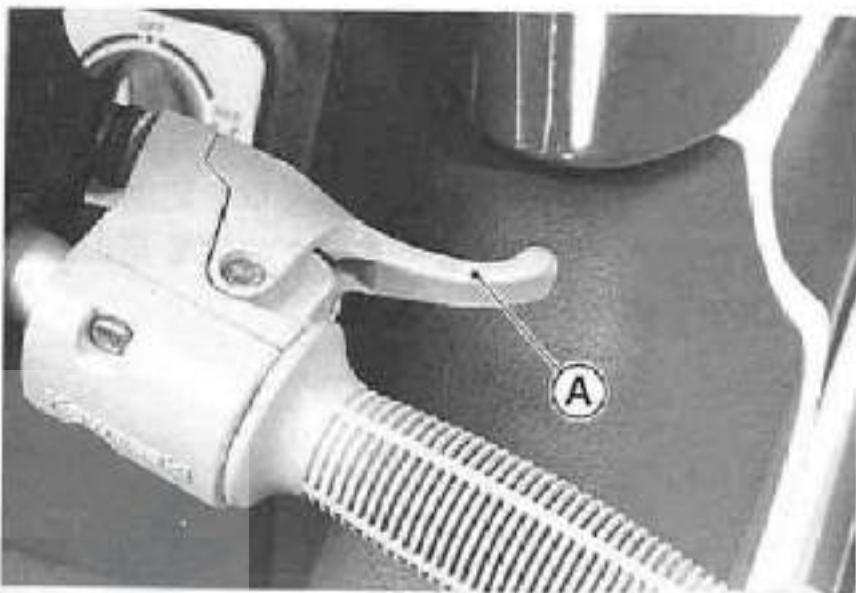
○エンジンが回転している時や、スタータがまだ回っている時にスタータボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、またスタータの故障の原因になります。



A. スタータボタン B. キルスイッチコードキー

〈要 点〉

- スタートボタンは、スタートロックスイッチが右位置にある時のみ作動します。
- エンジンが始動するためには、キルスイッチコードキーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照して下さい。



A. スロットルレバー

スロットルレバー

- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常の位置に戻るか必ず点検して下さい。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章を参照して下さい。

チョークノブ

- チョークノブはデッキ前方にあるパネルの左側に付いています。チョークノブを右方向に回すと（“ON”位置）、混合気が濃くなり始動が容易になります。始動後はチョークノブを元の位置（“OFF”位置）に戻します。



A. チョークノブ

B. 燃料バルブ

〈要点〉

- もし、チョークノブをエンジン始動後も使用しますと、燃料のむだ使いとなり、性能も下がり、またスパークプラグの汚れの原因になります。

燃料バルブ

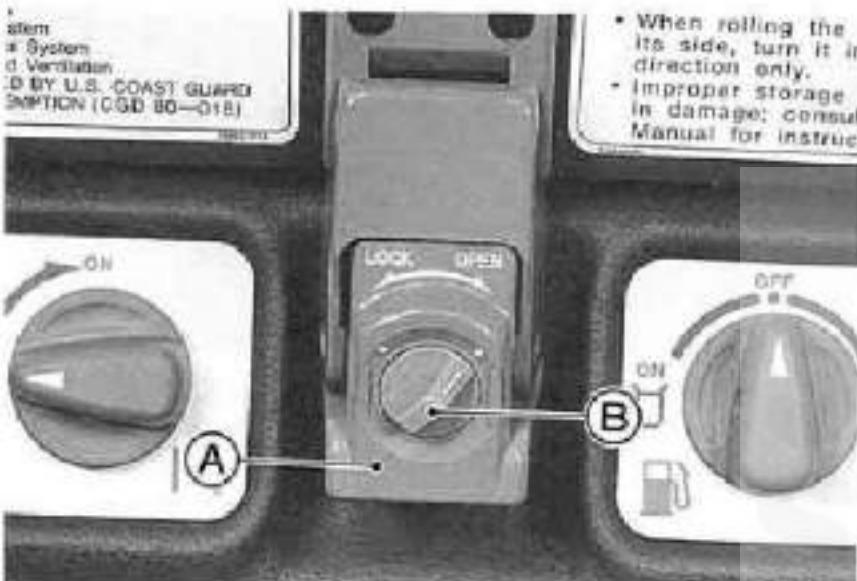
- 燃料バルブはデッキ前方のパネルの右側にあります。燃料バルブには、“ON” “OFF” “RES”（予備）の三つの位置があります。ONの位置で燃料を使い果たした時は、ノブをRESに切り換える事により約2ℓの予備燃料が使えます。RESに切り換えてから、エンジンはフルスロットルで約4分間運転できます。

〈要点〉

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず“ON”の位置にして下さい。

エンジンフード

- エンジンフードはデッキ前方のパネルにあるラッチで固定されています。

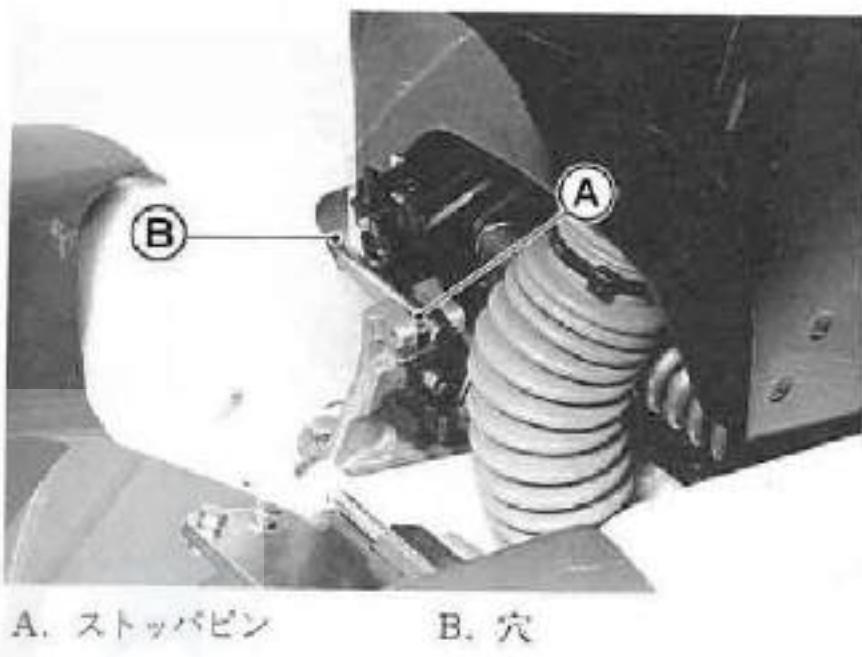


A. ラッチ

B. ノブ

エンジンフードの開け方：

先ずハンドルポールを一杯引き上げ、片手でそれを支えながらハンドルポールストップピンを引き上げてブラケットの穴に入れます。これでハンドルポールは立てた状態に固定されます。立てた状態のハンドルポールに寄りかからないで下さい。



A. ストップピン

B. 穴

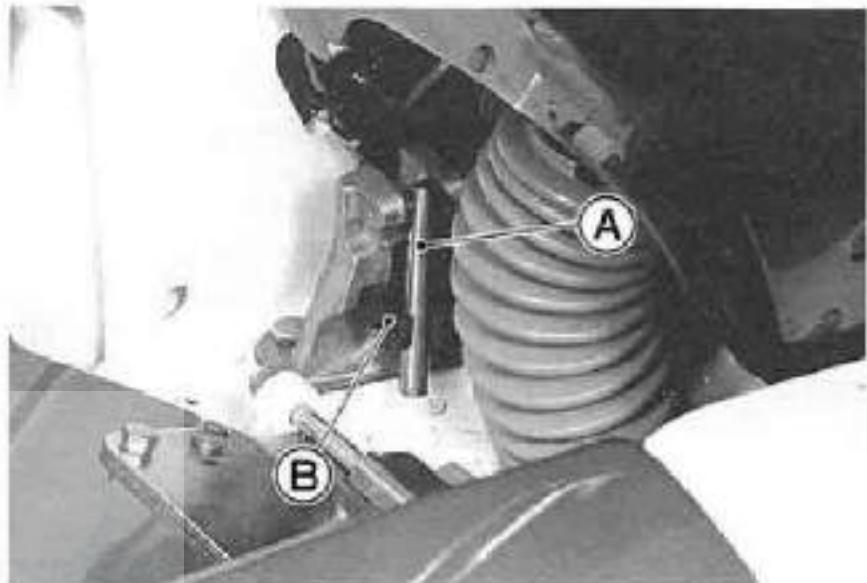
〈要点〉

- ストップピンをハンドルポールブラケットの穴にきっちりと入れて下さい。

次にラッチのノブを右にまわし、ラッチを一杯引き上げ、上部をエンジンフードから外します。そしてエンジンフードを取り外します。



A. 外す



A. ストッパピン

B. ホルダ

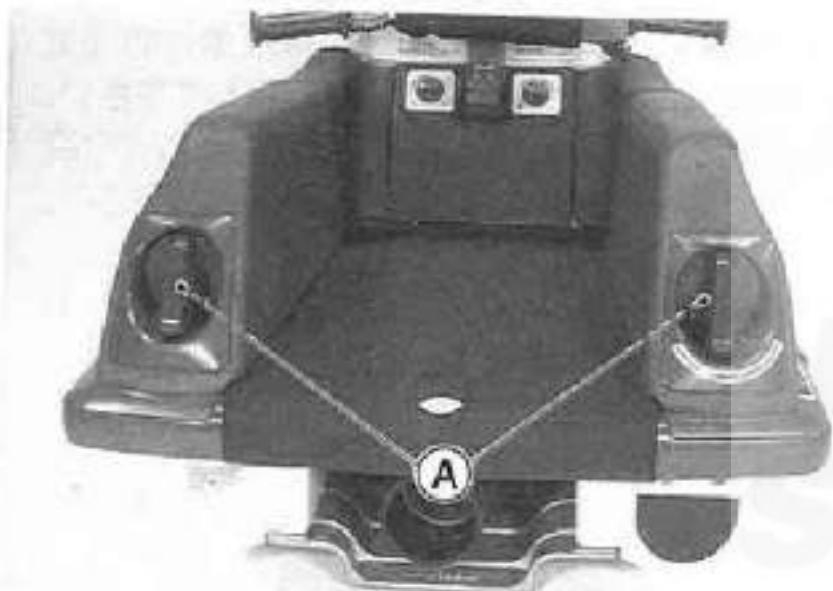
エンジンフードの閉め方：

エンジンフード先端のフックをハンドルポールブラケットのバーに上からはめ込み、フードを所定の位置に置きます。ラッチ上部をエンジンフードのブラケットに掛けて、ラッチを下へ押し下げて固定し、ノブを左へまわします。ハンドルポールを支えながら、ストッパピンをハンドルポールブラケットの穴から外してもとの位置に戻し、ホルダで固定します。ハンドルポールを下へゆっくりと降ろします。

ウォータークラフトを輸送する時は、エンジンフードが確実に固定されているか確認して下さい。また、ハンドルポールもしっかり固定して下さい。

小物入れ

- 船尾左右両側に小物入れがあります。工具、取扱説明書等を収納できます。



A. 小物入れ

小物入れの開け方

キャップを左に回して引きます。

小物入れの閉め方

キャップを押し込み、止まるまで右に回します。

注 意

- キャップのグリップをもってウォーターカラフトを持ち上げたり、グリップにロープ等をかけないで下さい。

工 具

- 工具は船尾左側の小物入れの中に入ります。この工具で取扱説明書に述べている調整及び整備を行う事ができます。

操縦方法

安全な操縦

操縦者の水泳能力：

▲警告

- 道具（たとえ浮袋のような簡単なものでも）を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができなければなりません。また、泳いで戻ってくることができる範囲より沖合に出ではいけません。

安全運転規則：

▲警告

- ウォータークラフトを操縦するには、五級小型船舶操縦士以上の海技免許が必要です。
- ウォータークラフトを操縦する際は、必ず安全規則、各地方の条例等をよく確認し、これ等に従って下さい。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注 意

- 一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意して下さい。
- 気象情報のみにたよらず、観天望気により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港して下さい。

観天望気：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- このウォータークラフトは一人用です。操縦者以外の人を乗せないで下さい。
- エンジンを始動する前に、スロットルやステアリングが正常に動くか点検して下さい。これらが故障していると、事故につながることがあります。
- 操縦者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用して下さい。ライフジャケットは身体に合ったものを使用して下さい。

- 操縦者は身体を保護できる衣服を着用して下さい。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷をする恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用して下さい。
- 操縦者は遊泳者、障害物、周囲の船舶から回避できる安全な速度、距離を保って航走して下さい。
- 他のウォータークラフトや船舶などの後ろを追走しない。
- 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
- 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
- 浅瀬や暗礁のある水域は航走しない。
- 発進や急旋回するときは、周囲に十分注意して下さい。ウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人々が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていないか、ふり返って確かめて下さい。
- 操縦者は早めに行動を起こし、衝突防止に努めて下さい。ウォータークラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。

- 操縦者は落水したとき、エンジンが停止するようキルスイッチコードを手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにして下さい。下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータークラフトから外して下さい。
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げる恐れのある薬物を服用して、ウォータークラフトを運転してはいけません。
- ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかって下さい。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者はデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかって下さい。
- 旋回するためにはジェットノズルからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に放すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられない恐れがあります。
- このウォータークラフトは、転覆してもそのときの波と風の状態によっては自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っているなければなりません。

- ウォータークラフトは日没後、操縦しないで下さい。夜間も操縦できるように設計されていませんし、灯火もありません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。
- インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないで下さい。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意して下さい。
- 決して、水上スキー用のジャンプ台をとび越えないで下さい。ウォータークラフトの損傷や、操縦者のけがのもとになります。
- 悪天候や荒波では危険ですからウォータークラフトを運転しないで下さい。重大な海難事故につながることがあります。
- 波を横切る前に、速度を落として下さい。荒波の中を高速で航走すると、脊髄、腰や足をいためることができます。
- 操縦者は、視界の良し悪し、他の船の往来、天候、波の状態などを考えて安全なスピードを判断しなければなりません。波がぶつかり合うような水面では、ウォータークラフトの航走特性はかなり影響されることがあり、操縦者が落水する原因になることがあります。さらに、悪条件のもとでフル

スピードで航走しようとすると、船が予想外の動きをする原因になり、けがをする恐れがあります。

注 意

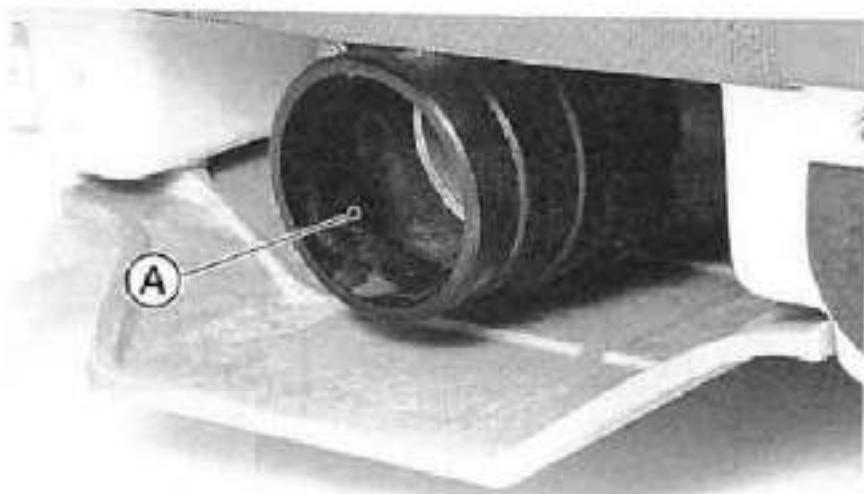
○ 波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータークラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

ジェットポンプに関する注意

ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。

▲警告

- エンジンが回転中は、けがをする恐れがありますので、ジェットポンプの吸水口（船底の中央後部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（ジェットノズル）に物をさし込まないで下さい。
- ウォータークラフトの背後に人がいるときは、スロットルを開けないで下さい。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにして下さい。スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをする恐れがあります。
- エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないで下さい。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりする恐れがあります。



A. ステアリングノズル

操縦者の安全装備：

▲警告

- 操縦者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用して下さい。ライフジャケットは身体に合ったものを使用して下さい。
- 落水・乗り込み時に、水の圧力により体腔内に水が入り負傷することがあります。操縦者は、しっかり保護できるウェットスーツパンツのような水着を着用して下さい。
- シューズ、手袋、ゴーグル（保護眼鏡）も着用して下さい。



目と足もとの安全と保護：

▲警告

- ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかって下さい。
- ウォータークラフトを操縦する時は、デッキシューズ等を履いて足を保護して下さい。水中にかくれている貝がらや岩等による打撲、すりきず等を防ぎます。

ヘルメット着用の選択：

ヘルメットは頭部を保護する場合もありますが、また頸部に損傷を与える場合もあります。

ウォータークラフトでヘルメットを着用する前に、その利点と危険をよく考えねばなりません。

利点：ヘルメットは固いものにぶつかったとき、頭部を保護します。

危険：ヘルメットはまわりの視野をせばめたり、疲れを増すことがあります、どちらも衝突につながる恐れがあります。

ヘルメットはまた、水中に転落したとき頭部とのどに負荷をかけ、重大なけがを引き起こす原因にもなります。

あなたが選択：あなたが、例えばレース中の転落のように、固いものに頭部をぶつける可能性が高いと考えるような状況で航走するつもりならば、ヘルメットを着用し、危険を負担することを選ぶことができます。一方、水面に頭部をぶつけるこの方がより多いと考える場合は、ヘルメットを着用しない方を選ぶことができます。

積載

⚠ 警告

○荷物の積載やアクセサリの使用、またはウォータークラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与え、航走条件を危険にします。乗る前に以下の指示に従っているか、必ず確認して下さい。

最大積載重量

定員1名

ウォータークラフトは重量配分の変化に敏感です。アクセサリをつけるときは、最大の注意を払って下さい。以下の一般的なガイドラインを参考にして決めて下さい。

- このウォータークラフトは定員1名として設計されています。定員以外の人を乗せないで下さい。定員以上乗ると、船の操縦安定性に悪い影響を与え、事故につながる恐れがあります。
- 船の性能を落とすようなアクセサリをつけないで下さい。

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータークラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検して下さい。

1) 燃料タンク内の圧力 :

燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。終了後キャップはしっかりと締めて下さい。

2) エンジン室の換気 :

エンジンフードを外し、エンジン室内を数分間換気します。

⚠ 警告

○気化したガソリンがエンジン室内にたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

3) 燃料漏れ :

エンジン室を換気している間に、燃料漏れがないか点検して下さい。

4) ピルジ(あか)の排水 :

ウォータークラフトを左側に傾けて、エンジン室内の水を出して下さい。船の左側にタオル等を敷いて船体に傷がつかない様注意して下さい。

注意

○ウォータークラフトは必ず左側に傾けて下さい。右側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。

5) ポンプの清掃：

吸水孔、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いて下さい。

6) ポンプカバー：

ジェットポンプカバー、吸水孔格子に緩みがないか点検し、必要なら取付ボルトを締めて下さい。

7) 船体の損傷：

船体の損傷を点検して下さい。

8) 燃 料：

燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給し、燃料バルブノブをONにします。

9) ファスナ：

ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、あれば締めて下さい。

10) ホースの接続：

すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められて

いるか確認して下さい。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換して下さい。

11) ステアリング：

ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検して下さい。必要であればケーブルを調整して下さい。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしてあり、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換して下さい。

12) スロットルコントロール：

スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

▲警告

○もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になるおそれがあります。

13) バッテリターミナル：

バッテリターミナルのスクリュがしっかりと締まっているか、また、ターミナルカバーが確実に取り付いているか点検します。

▲警告

○バッテリード線の取り付けが緩むとsparkが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡する恐れがあります。バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせて下さい。

▲警告

○密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

14) キルスイッチコード：

エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

15) ストップボタン：

再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。

16) エンジンフード：

エンジンフードをしっかりと取付け、ラッチがロックされたか確認します。

17) 操縦者の保護：

操縦者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をして下さい。

ならし運転

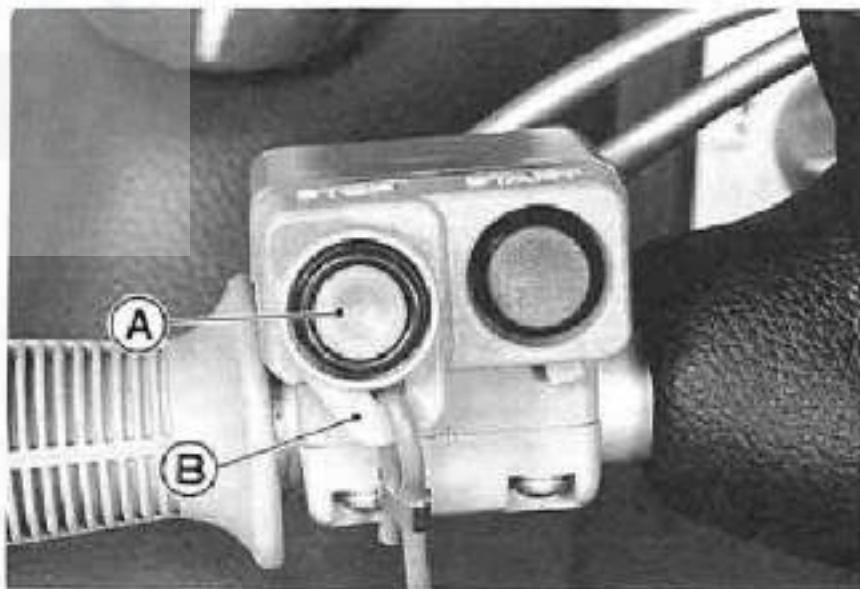
- 新しいウォータークラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、それらの偏摩耗を防ぎ、また表面を滑らかにするためです。最初の5時間は急激な加速や長時間の全速運転をしないで下さい。この間は全速の3/4以下で運転して下さい。
- 一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転して下さい。
- ならし運転期間中、ウォータークラフトを注意深く取扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場で定期点検整備を受けて下さい。「整備と調整」の章の「定期点検整備表」をご参照下さい。

エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによって、止めることができます。

○赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。

○キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込まねばなりません。



A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

⚠警告

- エンジンが停止すると、ウォータークラフトの進路変更ができなくなります。

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならない時は、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いて下さい。

考えられる緊急事態とは：

- *エンジンの回転をコントロールできなくなったとき。
- *スロットルレバーが指をはなしても完全に戻らないとき。

⚠警告

- もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを運転しないで下さい。
- 下船後は子供や他の人が使えないようにキルスイッチコードをウォータークラフトから外して下さい。

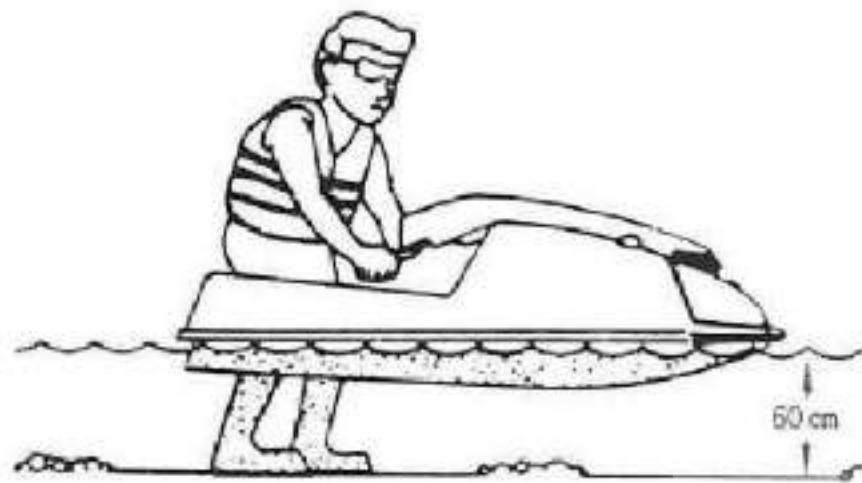
エンジンの始動

- 船を水上に降ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従って下さい。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気して下さい。

⚠警告

- 気化したガソリンがエンジン室内にたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深60cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ポートや障害物がないかよく確認します。



注意

○ウォータークラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が60cm以上の所で行って下さい。

- 燃料バルブをONにし、スタータロックスイッチを右位置にして下さい。
- 水の中でウォータークラフトの隣に立ち、コードキーをストップボタンの下に差し込み、コードのもう一方の端を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにします。コードを引っ張ってみて、しっかりと手首にはまっているか確認して下さい。

〈要 点〉

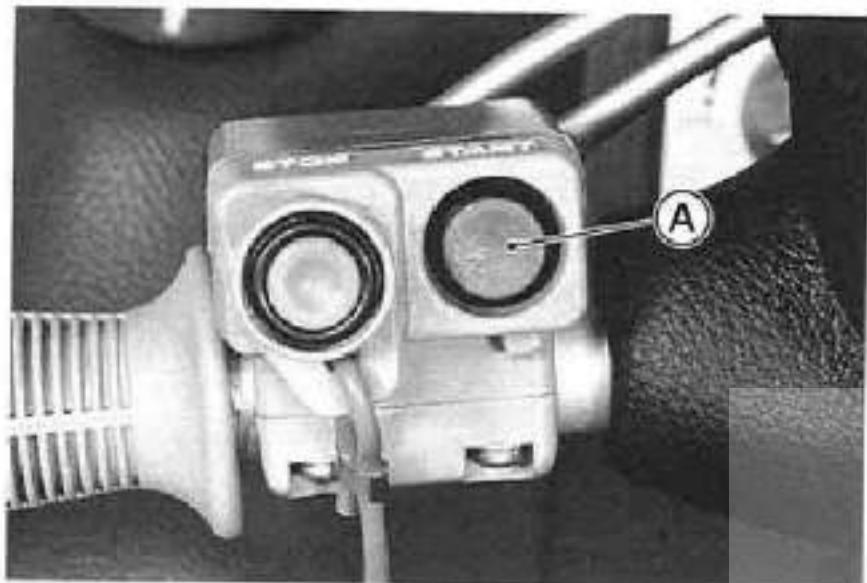
○キルスイッチコードキーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転しても始動しません。

- チョークノブを右へいっぱい回します（“ON”位置）。右手で右ハンドルバーを握り、スロットルレバーを少し引きます。

⚠ 警 告

○エンジンが回転中はジェットポンプの吸水孔（船底の中央後部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（噴水口）に物をさし込まないで下さい。けがをするおそれがあります。

- 左手で緑色のスタートボタンを押し、エンジンが始動したら放して下さい。もし、エンジンが5秒以内に始動しないときは、スタートボタンを放して下さい。15秒間待って再び始動させて下さい。数回試みても始動しない時は、「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。



A. スタータボタン

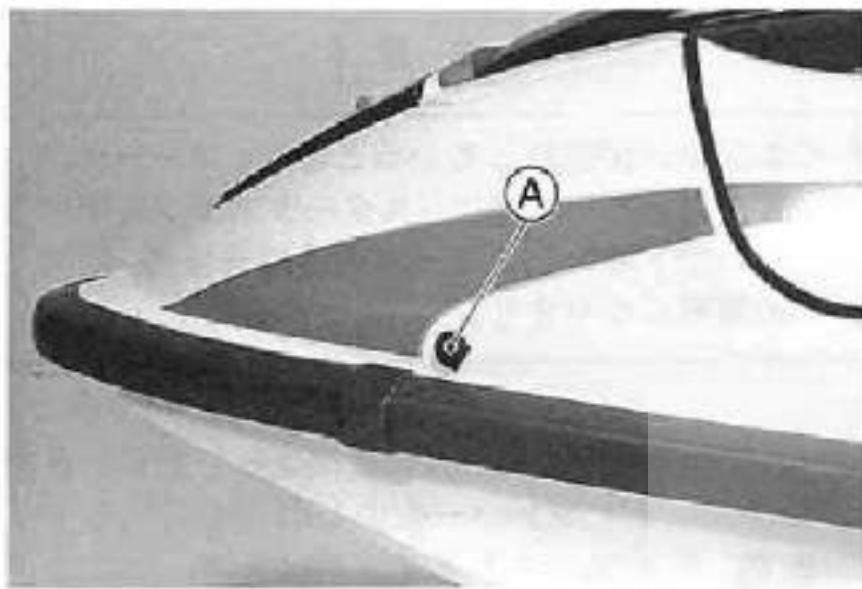
〈要点〉

- エンジンが始動しない時は、15秒間隔で始動を行って下さい。こうすることはバッテリやスタータの寿命を延ばすことになります。
- エンジンに初爆があれば、たとえ始動に至らなくてもチョークノブを左へいっぱい戻して下さい。燃料の過給を防ぎます。
- エンジンが温まっているときは、チョークを使わないで下さい。

注 意

○エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っている時に、スタータボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転します。ときどきスロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。
- スロットルレバーを引いたとき、船体の左側のバイパス出口から水が出てくるか確認して下さい。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていないときは、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



A. バイパス出口

発進

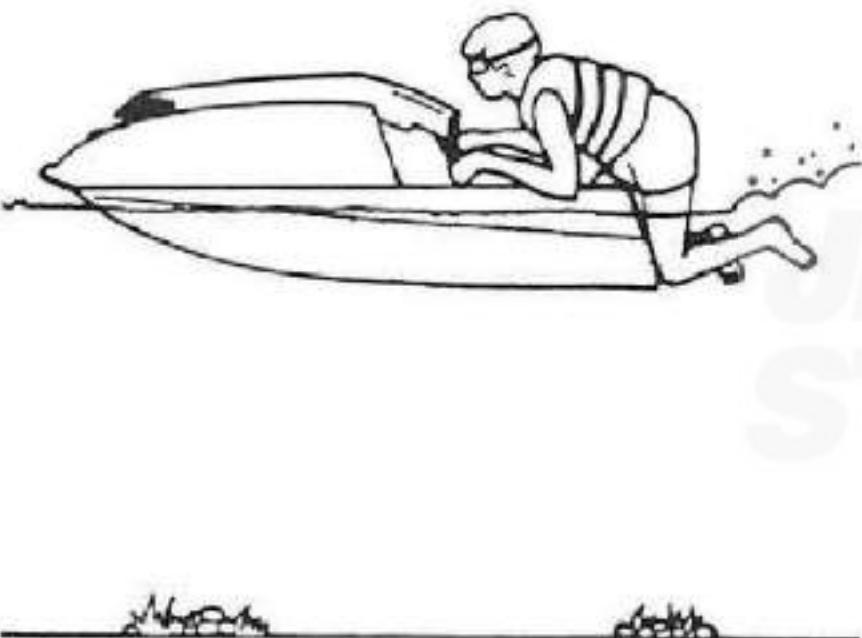
水深の深い場所での発進：

水深の深い所での発進はウォータークラフトの基本的な発進方法です。これは一番やさしい方法ではありませんが、深い所でウォータークラフトから落ちても再び乗ることができるように、マスターして下さい。

- ・少なくとも腰のあたりまでの深さでエンジンを始動させます。
- ・両手でハンドルバーをつかんでウォータークラフト後部にうつむく姿勢をとり、前腕は船べりに乗せます。
- ・前方の水面に障害物等がないか確認します。



- スロットルレバーを引き、急速に加速して下さい。ジェットの推力により船体が安定し、旋回が可能になります。加速するにつれて船べりについたひじをテコにしてデッキに体をのせ、次にひざを乗せます。ハンドルの操作のじやまにならない程度にできるだけ前へ移動して下さい。



▲警告

進行方向にいるボートや泳いでいる人達、その他障害物に注意して下さい。これは危険防止のため初心者には特に重要なことです。

- ウォータークラフトのスピードが上がるにつれて船首が下がり水平になって滑走します。体重の軽い人より重い人の方が時間がかかります。一旦、滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走って下さい。

深いところでの発進は、体重の重い人、又は体調の良くない人には一般的により難しくなります。この場合、岸に戻り浅い場所から発進して下さい。何回か練習すると深い所での発進もできる様になります。

▲警告

体を後に引きずったような姿勢でウォータークラフトを長時間操縦しないで下さい。視野がさえぎられるため、進行方向のボートや泳いでいる人達、その他障害物が見えにくくなります。また、ジェットポンプが吸い上げて後へ噴出するおそれのある異物も見えないかも知れません。

水深の浅い場所での発進：

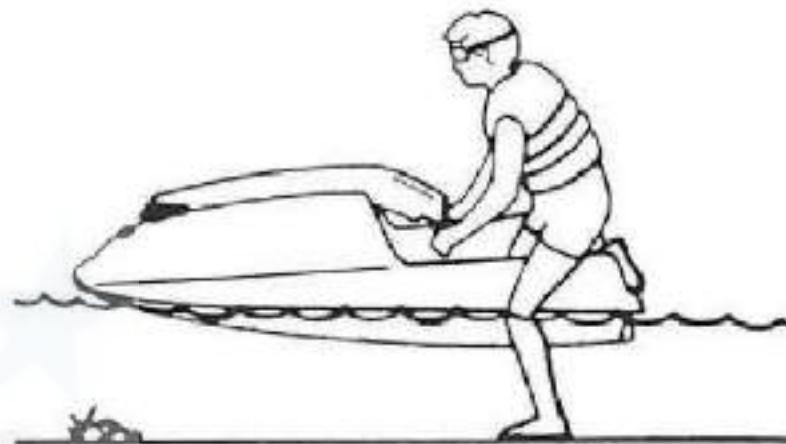
一番やさしい発進方法ですが、これにばかり頼らないで下さい。深い所での発進がやはり初心者には最も大切な方法です。

- ウォータークラフトを浅瀬にけい留するときはいつも砂場や岩場を引きずらないで下さい。これは船体の傷を減らし、砂や岩がジェットポンプの中に入り、再始動時、ジェットポンプが損傷することを防ぎます。
- 海岸に引きあげたウォータークラフトの中に砂や岩が入ったときには、水中にて船尾を何回も大きく上下させ、ジェットポンプの中を洗浄します。
- 少なくとも60cm以上水深がある所でエンジンを始動させます。

注意

- ウォータークラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が60cm以上の所で行って下さい。

- 両方のハンドルバーのグリップをつかみ、一方の足でバランスを取りながら他の足のひざをデッキに乗せます。



- 前方の水域に何もないか確認し、ハンドルバーを真っすぐ前方に向けて下さい。
- スロットルレバーを引き、急速に加速します。ジェットの推力で船体が安定し、旋回が可能になります。
- 進行方向の他のボート、泳いでいる人達、障害物に絶えず注意を払って下さい。

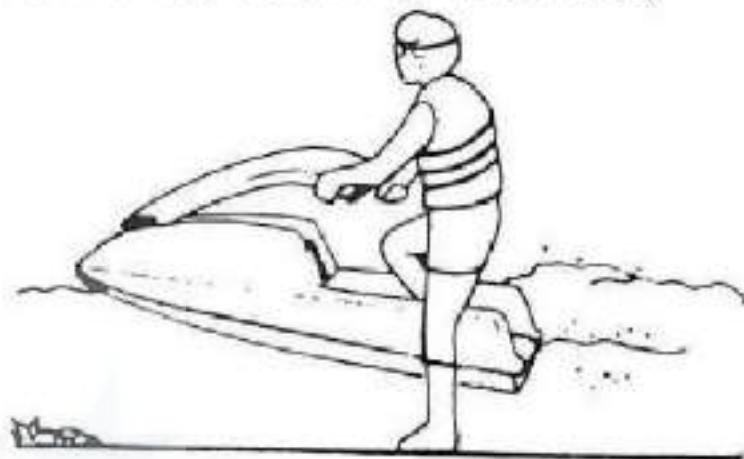
- ウォータークラフトが加速したら、もう一方のひざもデッキに乗せ、ハンドル操作のじゃまにならない程度にできるだけ前方へ移動して下さい。体重を前方に低くかけ、体を垂直に保って下さい。



立った姿勢での発進：

- この方法は熟練者が行うことができます。
- 少なくとも60cm以上水深がある所でエンジンを始動させます。

- 片方の足で海底に立ってバランスをとりながら、もう一方の足をデッキに乘せます。

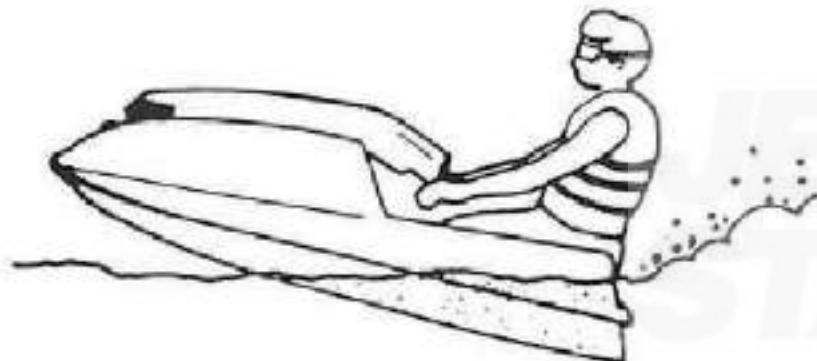


- すばやく加速して滑走に移り、立てていた足もデッキの後部に乗せます。
- 進行方向の他のボート、泳いでいる人達や、障害物に絶えず注意を払って下さい。



停 止

- ウォータークラフトは前進力によって滑走状態(水平)を保っているので、停止すると操縦者の体重により後部はいつも沈むことになります。従って、停止したらウォータークラフトから降りられるよう準備をしておいて下さい。



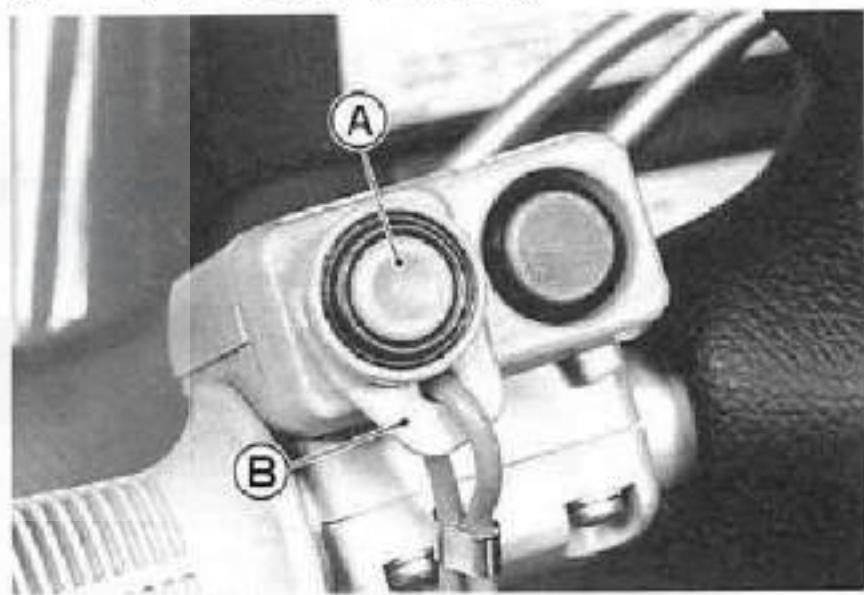
！警告

○フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100m以内に直進して近づかないで下さい。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落として下さい。

ウォータークラフトの停止方法は通常2通りのうちのどちらか一つです。いずれも水の抵抗を利用して停止します。

直線停止：

赤色のエンジンストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いて下さい。



A. ストップボタン

B. キルスイッチコードキー

ストップボタンを押すか、またはコードキーを抜くと直ちにエンジンが止まり、最短の直線距離で停止します。岸や停止したい位置に近づいてきたら赤色のストップボタンを押して下さい。砂や異物がジェットポンプに入り損傷させることを防ぎます。

⚠ 警告

- ウォータークラフトの旋回が必要なら、エンジンを止めないで下さい。エンジンが止まると方向を変えることはできません。

通常停止：

スロットルレバーを放して下さい。



A. スロットルレバー

スロットルレバーを放すと、エンジンストップボタンを押した場合と殆ど同じ位早く、船の前進運動を止めることができます。重要なことは、エ

ンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いて船の進行方向を変えることができます。この方法で船を旋回させ、障害物から離れることができます。

⚠ 警告

- スロットルレバーを完全に放すとウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

停止技術：

停止距離は操縦者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮することができます。停止距離を短くするには、停止するさいに体重を後へ移動する方法と、スロットルレバーを使って急旋回する方法があります。

⚠ 警 告

○ウォータークラフトが完全に止まらないうちに降りる時は、前方に他のポートや泳いでいる人達、障害物がない事を確認して下さい。

緊急時には身を守るためにいつでも船からとび降りてもかまいませんが、水上にいる他の人達を守る事にも最大の努力を払わなければなりません。

最短停止距離

最高速度で滑走中に、ストップボタンを押したときの最短停止距離は 60m です。

この数字は一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変われば数字も変わってきます。

旋 回

ウォータークラフトを旋回させるには次の三つの動作の組み合せが必要です。

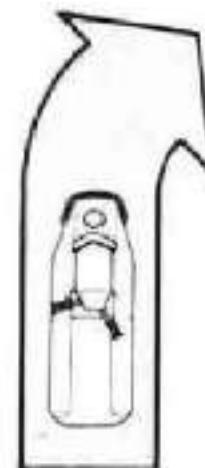
- ハンドルバーを回す。
- 旋回方向に体を傾ける。
- スロットルを使う。

左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。



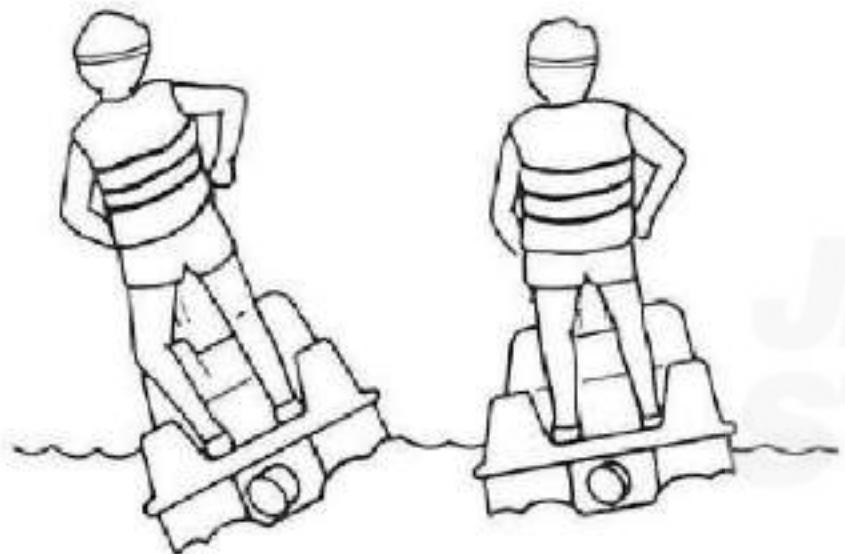
左

右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。



右

- バランスをとるために、体を旋回の内側へ傾けて下さい。傾ける度合いは、旋回半径の大小と滑走速度によって異ります。一般的には、速度が上がる程、または旋回半径が小さくなる（鋭く旋回する）程大きく体を傾けて下さい。

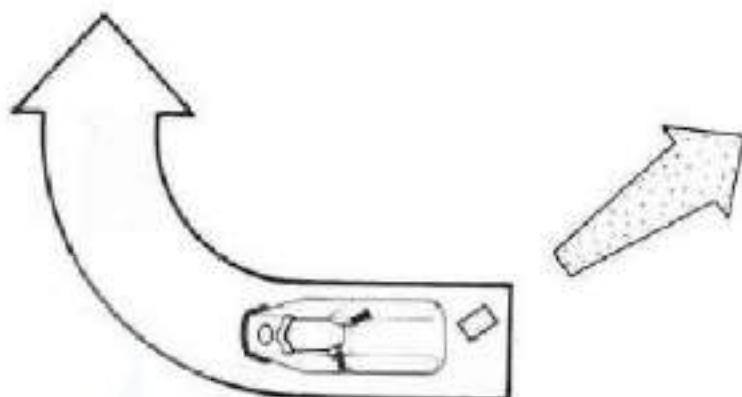


急旋回・高速旋回

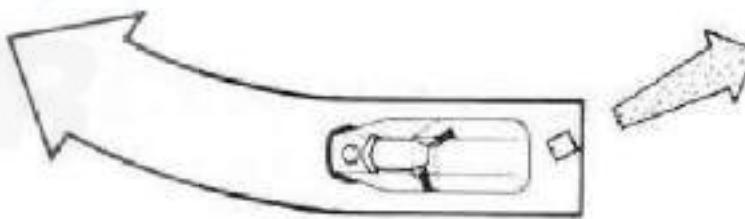
緩旋回・低速旋回

スロットルを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

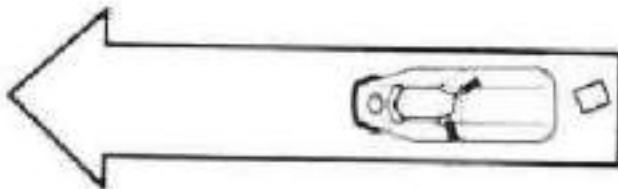
ジェットポンプの推力が強いとウォータークラフトはより鋭く旋回します。



ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



航走中にエンジンを停止するとジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータークラフトは真っすぐに進みます。



無推力=旋回不可

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

▲警告

○スロットルレバーを完全に放すとウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いて下さい。

ウォータークラフト“ジェットスキー”的乗り方

初めてウォータークラフトに乗った時は、まずデッキに両ひざをつき、ハンドルポールを降ろしたままにして下さい。そしてウォータークラフトの扱い方に慣れて下さい。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルが旋回にどう影響するか感触をつかんで下さい。

ウォータークラフトの船首が連続的に上下する状態（ボーポイジング）が起きたら、体重をさらに前方へ移して下さい。

▲警告

- ハンドルポールの真上にあごがくるような乗り方をしないで下さい。波にぶつかったとき、けがをすることがあります。

- もし、燃料が切れてエンジンが止まった場合、チョークノブを回してはいけません。燃料バルブノブをRESの位置に回し、エンジンをもう一度始動します。常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意して下さい。

（要点）

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず“ON”的位置にして下さい。

注意

- ハンドルバーを押し下げないで下さい。ハンドルポールはエンジンフードの上に乗っているので傷がつくおそれがあります。
- ウォータークラフトを岸に乗り上げないで下さい。インペラや船体がひどく損傷することがあります。
- 浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

一般に体重の重い人程上達するのに時間がかかります。操作特性に慣れたら、次は立って操縦する練習ができます。

立ち上がり方：

- 安定したスピードを保ちながら、ハンドルバーを少し持ち上げ、片足をデッキの前方近くに置きます。
- バランスを保ち、立って操縦する位置へゆっくりと立ち上ります。ハンドルバーも一緒に持ち上げます。



- 体を垂直に保ち、ハンドルバーで旋回します。上達するに従って、体の反射運動の効果とか旋回時に体を傾ける効果を試してみて下さい。

転 落：

初めてウォータークラフトに乗り、大抵の人がやるようにもし水中に転落しても落胆しないで下さい。ウォータークラフトの楽しみ方の一つはチャレンジであり、柔道の受身のように最良の倒れ方を知ることも大切なことです。

また、操縦者がウォータークラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

▲警告

- ウォータークラフトから落ちた時、ハンドルバーにしがみつかないで下さい。ウォータークラフトにぶつかってけがをするおそれがあります。

注 意

- 落ちるときにハンドルバーにしがみつくと、ハンドルボールに狂いが生じる原因になり、その結果ハンドルボールとエンジンフードが損傷する原因になることがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、しりから先に水面に落ちることです。
- コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- 「発進」の項で述べた要領で船に乘ります。
- もしウォータークラフトが復元せずに転覆したままになっていれば、直ちに次に述べる起こし方に従って下さい。

〈要点〉

- もし、ウォータークラフトが大きく転覆したら、(特に初心者が操縦していた場合)、熟練者がときどきスロットルを全速にして走らせることが必要です。これによりエンジン室にたまつた水はビルジ装置で排水されます。
- ウォータークラフトは浮揚能力があります。エンジン室が水で一杯になつても、船首は完全に水面下になっていますが、船体は水平に浮かんでいます。しかし、もしエンジン内に水が入つた場合は、「浸水後の処置」の項の指示に従つて下さい。

転覆したウォータークラフトの起こし方：

万一ウォータークラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。

▲警告

- このウォータークラフトは転覆してもそのときの波と風の状態によっては自動復元しません。操縦者は適切なウォータークラフトの起こし方を知つていなければなりません。さもないと立ち往生することがあるかも知れません。

直ちに次の手順で船体を起こして下さい。

- エンジンが停止したか確認します。もし停止していないければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注 意

○もし、ウォータークラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、キャブレタやエンジンに水に入る恐れがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

- 転覆した船の後部に泳いで行きます。
- 両手でデッキ後部の左右の角をつかみ、船を回転させます。
- コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- 再び船に乗り込みます。

〈要 点〉

○ウォータークラフトがいったん転覆した場合は、熟練した操縦者がスロットルを全開にしてしばらくの間船を走らさねばなりません。こうするとビルジ装置が働いて、エンジンルームにたまつた水を排出することができます。
○もしエンジン内部に水が入った場合は、特別な処置が必要です。「特殊な手入れ」の項の「浸水後の処置」を参照して下さい。

航走終了後の手入れ

第1：排気系統の水抜き

- ウォータークラフトを水から引き揚げます。
- エンジンを始動し、数秒間回転させて余分な水を排気系統から出します。排気孔から水が出なくなる迄、くり返しエンジンをふかして下さい。

注 意

○水から引き揚げた状態では、エンジンを高速で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。
○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄して下さい。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは塙の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

第2：エンジン室内の清掃

- エンジンフードを取り外します。
- エンジン室内に水がたまっていたら、ウォータークラフトを左に傾け、排水して下さい。この時、船体を傷めないようにタオルかパッドを敷いて下さい。
- エンジン室内を拭いて乾かし、エンジンフードを取り付けます。
- ウォータークラフトを保管する場合は、エンジン室の換気ができるように、フードをきっちり締めずにつき間を開けておいて下さい。

特殊な手入れ

インペラの清掃：

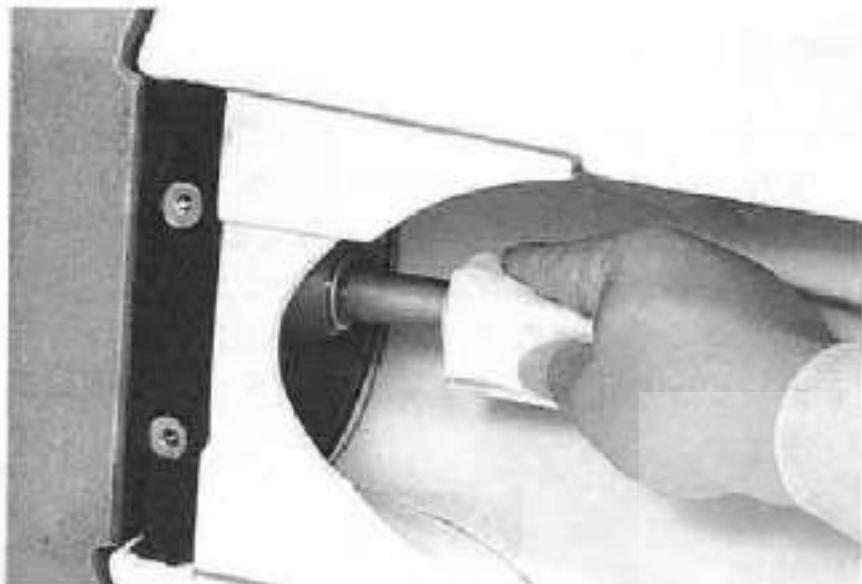
時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータークラフトを引き揚げます。

▲警告

○エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないで下さい。怪我をするおそれがあります。エンジンを止め、スタータロックスイッチを左位置にしておいて下さい。

- スタータロックスイッチを左の位置にします。
- タオルかパッドをウォータークラフトの横におきます。
- ウォータークラフトを左に傾け、必要ならばジェットポンプの格子及びカバーを取り外して下さい。
- 吸水孔、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプ口、ステアリングノズルから海草やゴミを取り除きます。



注意

○ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっているか確認して下さい。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトをしっかりと締めます。

ボルト締付トルク：0.8kg·m

汚れたスパークプラグの清掃：

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度、長時間のアイドリング運転、チョークを使用したままの航走、規定されたガソリン対オイルの混合率以上にオイルを入れ過ぎた場合等です。また、燃料に水が混じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取付けて下さい。汚れたスパークプラグはプラグクリーナで清掃して下さい。水のついたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。
- エンジンを始動します。スロットルはほとんど使わないで下さい。

浸水後の処置：

注意

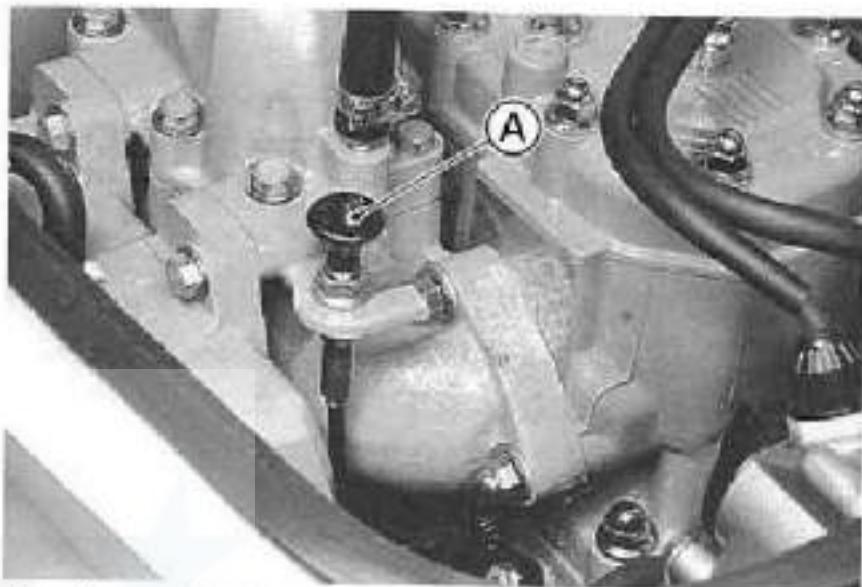
○もしエンジン内に水に入ったならば、直ちに次の処置をして下さい。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もし、ウォータークラフトが浸水したら、キャブレタの吸気孔からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクにも水が入ることがあります。

1. ウォータークラフトを水から引き揚げ、エンジンフードを取り外します。
2. ウォータークラフトを左に傾け、エンジン室から水を出します。
3. スパークプラグを取り外します。
4. エンジンドレンバルブノブを引き上げながらストップボタンを押したまま、またはコードキーを抜いて、スタートボタンを押します。これでエンジン内の水が排出されます。スタートボタンは5秒以上押さないで下さい。もう一度スタートボタンを使用する時は15秒以上間を開けて下さい。

▲警告

○この作業中は、エンジンの上にかがみこまないで下さい。スパークプラグ孔から水と燃料の混合物が勢いよく噴出し、目に入る恐れがあります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗って下さい。そして、できるだけ早く医者の診察を受けて下さい。



A. ドレンバルブ

5. ドレンバルブノブを戻します。
6. 再びウォータークラフトを左に傾け、エンジン室から水を出します。
7. ドレンバルブノブを引き上げ、もう一度エンジンを回してエンジン内の水が完全に出たか確認します。ドレンバルブノブを戻します。
8. スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグを取付けます。

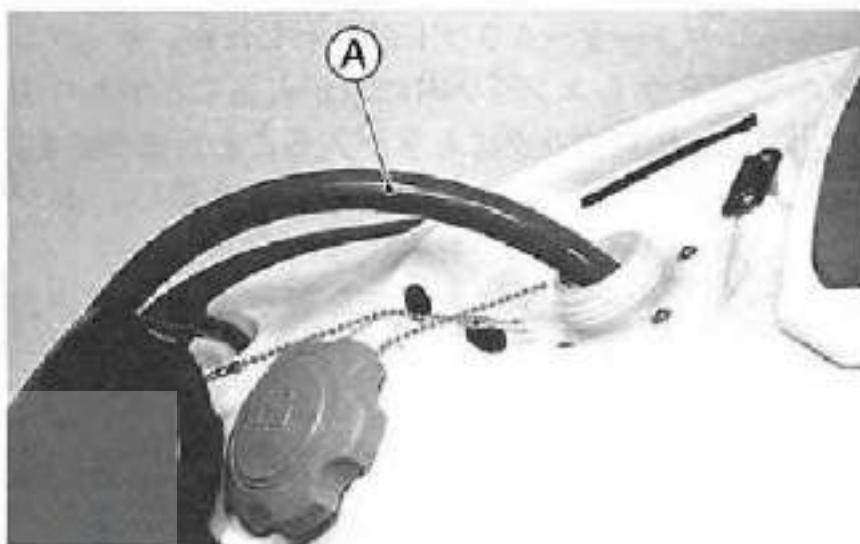
スパークプラグ締付トルク：2.5~3.0kg·m

9. エンジンを始動します。

注意

- 水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。
- 水から引き揚げた状態では、エンジンを高速で回転させないで下さい。エンジンの重大な故障の原因になります。

10. もし、エンジンが始動しないならば、スパークプラグを取り外し、水気がないか点検します。浸透性防錆剤をスプレーして清掃し、再度始動して下さい。何度もプラグに水が付着するならば、燃料系統内に水汽があります。
11. 燃料タンク内に水があれば、ポンプまたはサイフォンで全部抜きとります。燃料フィルタクリーンを清掃します。（「整備と調整」の章の「燃料系統」の項参照。）新しい燃料を入れます。汚れた燃料は決められた場所で処理して下さい。



A. サイフォンホース

▲警告

- ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタートロックスイッチを左位置にし、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

注意

- 油脂類の廃液は法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店にご相談下さい。

〈要 点〉

○エンジンから全く水がなくなる迄、この方法を数回繰り返す必要があるかも知れません。繰り返しトラブルが起きるときは、水を排出するために燃料ポンプを分解する必要があります。販売店に相談してみて下さい。

12. エンジンフードを取り付けます。
13. 最後にウォータークラフトを水上に戻し、10分間以上走らせて残っている水を完全に乾かし、異物（塩など）を排気孔から排出します。

ウォータークラフト“ジェットスキー”のえい航：燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合にはウォータークラフトをえい航してもらうことができます。6mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ポートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8km/h以上のスピードを出さないで下さい。

注 意

○この指示は重要ですから必ず守って下さい。そうしないとエンジン室に漫水し、ウォータークラフトの一部が沈む事があります。

ジャンプコードによる始動：

バッテリが上がった場合、取外して充電する必要があります。それができない時は、他のウォータークラフト等の正常なバッテリとジャンプコードを使って始動することができます。その場合ウォータークラフトのバッテリと同じ電圧(12V)のものを使用して下さい。

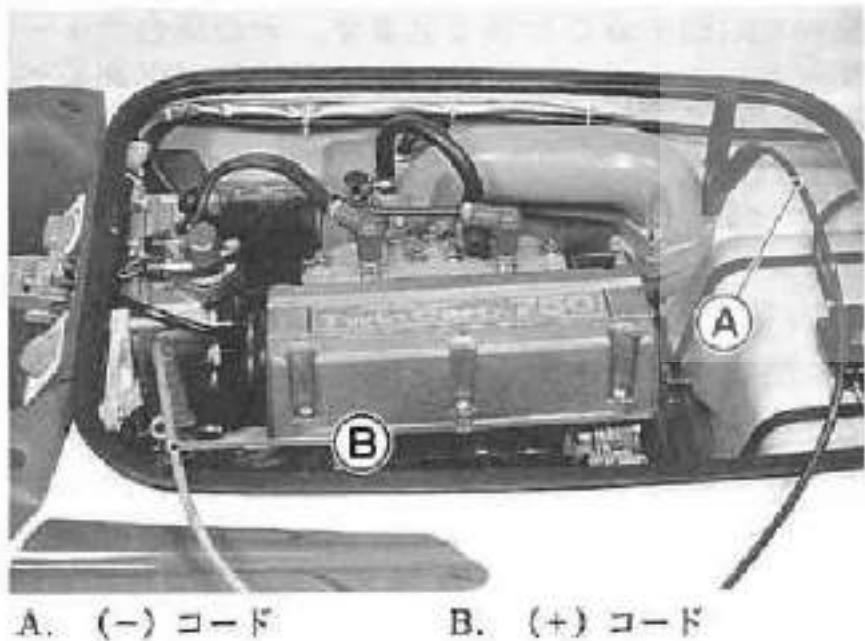
▲警 告

○バッテリ液は条件によっては引火性及び爆発性がある水素ガスを発生します。このガスはバッテリ内に常時あり、放電しきった状態でも残っています。火気や火花をバッテリから遠避けて下さい。またバッテリを取り扱っている時は、保護メガネを着用して下さい。バッテリ液が皮膚や目、衣類に付着した時は、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者の診察を受けて下さい。

- 両方のバッテリの (+) ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリの (-) ターミナルに接続します。

注意

- バッテリを反対の極 [(+)から(-)] へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



- もう一方の端をエグゾーストパイプのボルトに接続します。

警告

- 最後の手順の接続を間違ってキャブレタやバッテリへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をする時はバッテリの上に体を乗り出さないで下さい。また、凍結したバッテリをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発するおそれがあります。

注意

- 5秒間以上連続してスタータを回さないで下さい。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、また回して下さい。

- エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外して下さい。

エンジンのオーバーヒート：

このウォータークラフトには、エンジンがオーバーヒートしたときにエンジンの回転を落とす温度センサがついています。

- スロットルレバーを引いてエンジンが回転しているのに、ウォータークラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って冷却系統が詰まっているか点検して下さい。

注 意

- 航走中にウォータークラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って下さい。オーバーヒートは、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを運転しないで下さい。

保 管

冬の間や、長時間ウォータークラフトを使用しない時は、適切な保管が必要です。無くなったり部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑、また一般的には次回ウォータークラフトを使用する時、最良のコンディションにしておくための準備をしておきます。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で行なってもらうか、または次の事項を実施して下さい。

保管する前の作業

冷却系統

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

ビルジ系統

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーバーに再び接続する前に、両方のホースに圧縮空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出して下さい。



A. 両方のホースに空気を吹き込む。

燃料系統

▲警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スターターロックスイッチを左位置にし、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- サイフォンまたはポンプを使って、燃料タンクから燃料を抜いて下さい。
- 燃料フィルタスクリーンを清掃します。（「整備と調整」の章の「燃料系統」の項参照。）
- 燃料タンク内の結露を防ぐために、燃料注入口キャップを緩めたままにしておいて下さい。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、キャブレタ内の燃料を使いきるまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。
- コードキーをストップボタンから抜きます。

注 意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

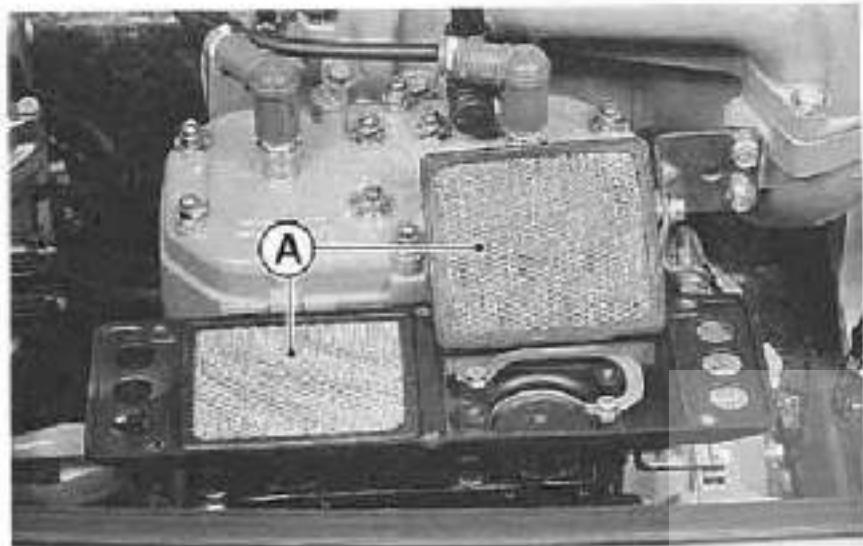
- キャブレタから空気吸入孔カバーを取り外します。



A. 空気吸入孔カバー

B. ボルト

- フレームアレストエレメントを取り外し、石鹼水で洗います。乾いたらエレメントを取り付けます。上下の区別はありません。



A. エレメント

- キャブレタ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- カバーを取り付け、しっかりとボルトで締めます。

エンジン

- スパークプラグを取り外し、各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- ストップボタンを押しながら、またはコードキーを抜いてスタートボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

▲警告

○この作業中は、エンジンの上にかがみこまないで下さい。スパークプラグ孔から防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入る恐れがあります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗って下さい。そして、できるだけ早く医者の診察を受けて下さい。

- スパークプラグに浸透性防錆剤をスプレーして取付けます。

スパークプラグ締付トルク：2.5~3.0kg·m

バッテリ

- バッテリを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意

○密封栓は絶対に取外さないで下さい。バッテリが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかないで下さい。また、保管中は大体月に1回補充電して下さい。

洗　淨

- エンジン室を水洗いし、ウォータークラフトを左に傾けて排水します。残った水はきれいに拭きとります。
- 船体の外部を水洗いし完全に乾かして下さい。

注　意

○ウォータークラフトを洗う場合は洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用して下さい。強力な溶剤は化学作用で表面塗装を変色させることができます。

- ウォータークラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

潤　滑

- すべての推奨潤滑方法を実施して下さい。(「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。)

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐蝕防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。
- エンジンフードをゆるくかぶせ、適当な換気が行われ、結露を防ぐために10mm位の木片等をさし込んでおきます。

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータークラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。カワサキのウォータークラフト“ジェットキー”の販売店で行なってもらうか、または次の事項を実施して下さい。

- すべての推奨潤滑方法を実施して下さい。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）
- スロットル、チョーク及びステアリング機構が動かなかったり、途中でひっかかったりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置に戻らなければいけません。
- スパークプラグを清掃し、キャップを点検します。（「整備と調整」の章の「スパークプラグ」の項参照。）
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータークラフトを左に傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換して下さい。カバーを取り付け、しっかりと固定します。
- ターミナルを清掃し、必要ならば補充電します。

バッテリを取り付けて下さい。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）

- 燃料フィルタクリーンを点検または交換します。（「整備と調整」の章の「燃料系統」の項参照。）
- 燃料タンクに燃料を入れ、注入口キャップをしっかりと締めます。

▲警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スターターロックスイッチを左位置にし、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気して下さい。

▲警告

○気化したガソリンがエンジン室内にたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理して下さい。

⚠ 警 告

○密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料及び排気ガスの漏れを点検して下さい。漏れがあれば必ず修理して下さい。

注 意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因となります。

○水から引き揚げた状態では、エンジンを高速で回転させないで下さい。エンジンの重大な故障の原因になります。

- エンジンフードを取り付け、ラッチがロックされたか確認します。

整備と調整

定期点検整備表

（要 点）

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施して下さい。

実施項目	頻 度	最 初 の 10時間後	25時間毎	100時間毎
すべてのホースクランプ、ナット、ボルト及びファスナを点検する。	●	●		
キャブレタ部のスロットルケーブル取付部及びチョークケーブル取付部を潤滑する。		●		
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。		●		
チョークケーブルとスロットルケーブル及びスロットルケースのケーブル取付部を潤滑する。		●		
ステアリングケーブルのボールジョイントとステアリングノズルのピボットを潤滑する。		●		
ハンドルバーのビボットを潤滑する。		●		
燃料フィルタクリーンを清掃する。		●		
キャブレタを調整する。		●		
ビルジ系統及びフィルタを洗浄する。		●		
冷却系統を洗浄する（海上で操縦した時は使用後毎回）。		●		
フレームアレスタを点検及び清掃する。		●		

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	100時間毎
※インペラのブレードの損傷を点検する。(要取外し)。				●
※カップリングダンパーを点検、交換する。				●
※キャブレタのスロットルシャフトのスプリングを点検する(もし必要ならばキャブレタを交換する)。				●
※ステアリングケーブルを点検する。				●

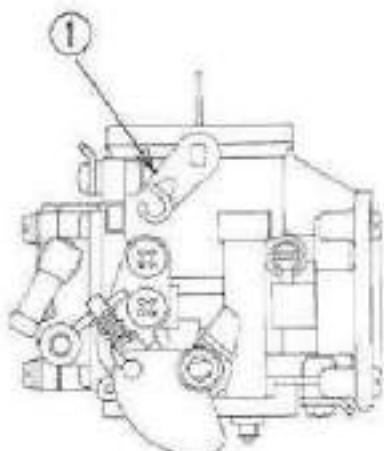
※これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取扱いに熟練していなければ、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で実施してもらって下さい(サービスマニュアル参照)。

JET
STAR

コントロールケーブルの調整

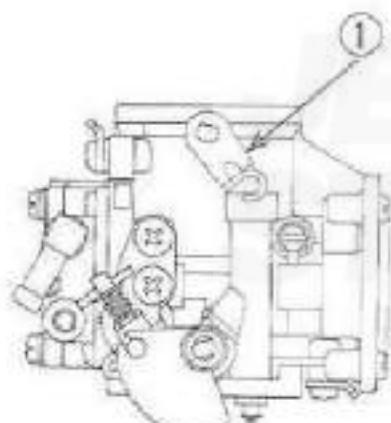
チョークケーブルの調整

- チョークノブが左にいっぱい回っているとき（“OFF”位置）、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に開いていなければなりません。チョークのピボットアームが船の右側にいっぱい向いており、ケーブルがわずかに緩んでいるか点検します。



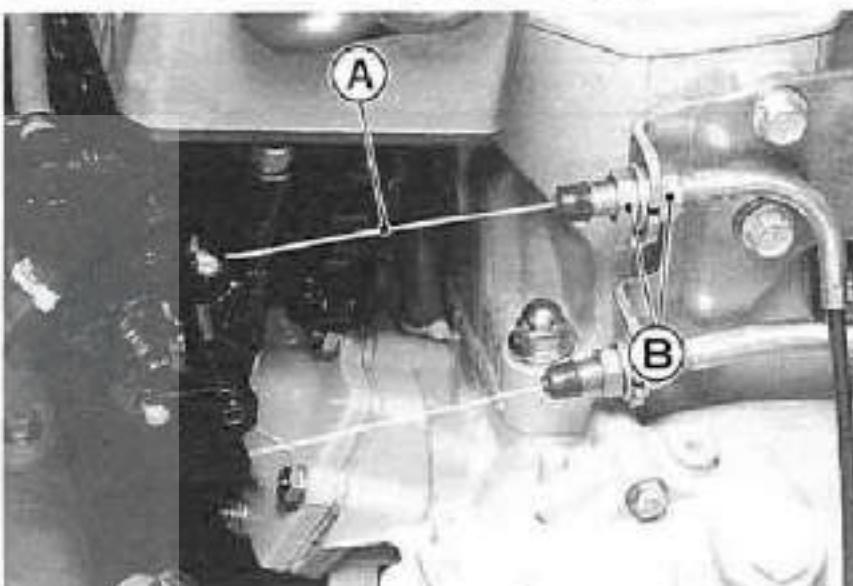
チョーク開
(ノブが“OFF”位置)

1. チョークピボットアーム



チョーク閉
(ノブが“ON”位置)

- 必要ならばチョークケーブルを調整して下さい。
 - チョークノブを“OFF”位置にします。
 - ケーブルブラケットにあるロックナットを緩めて回し、ケーブルに少しの遊びを持たせます。
 - ロックナットをしっかりと締めます。



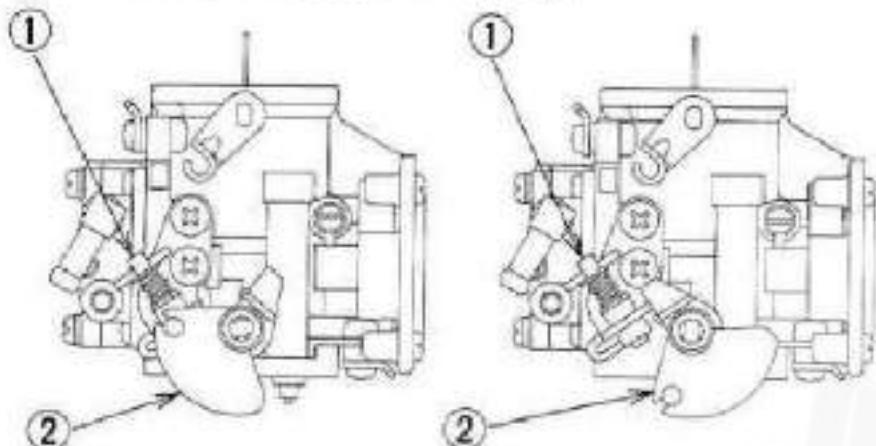
A. チョークケーブル

B. ロックナット

スロットルケーブルの調整

- スロットルケーブルの調整具合を点検します。
 - スロットルレバーを全く放した状態では、スロットルピボットアームの下側のストッパーがアイドリングアジャストスクリューに当たっており、スロットルケーブルはわずかに遊びがあります。

- スロットルレバーをいっぱい引いたとき、ピボットアームの上側のストッパーがキャブレタのストッパーに最大限に近接しています。

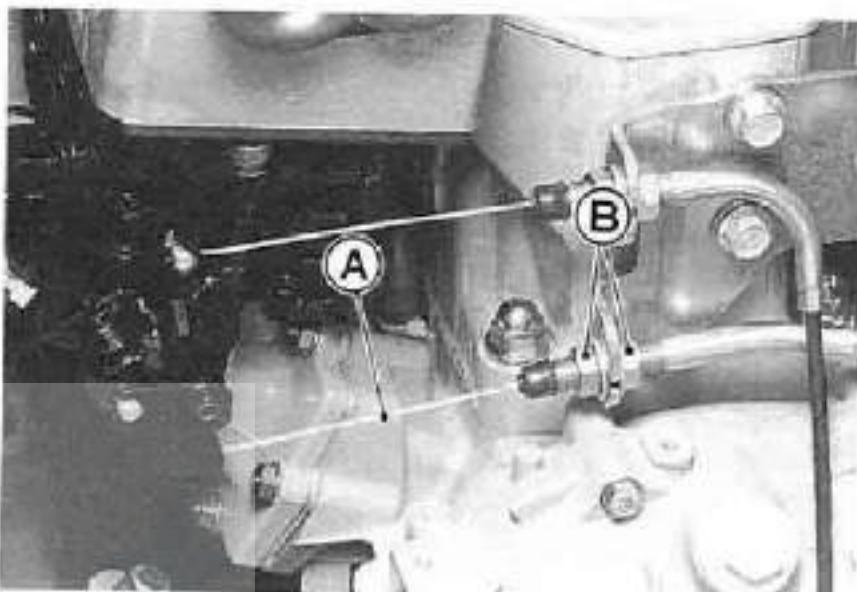


スロットル閉
(レバーを放した状態)

スロットル開
(レバーをいっぱい引いた状態)

1. アイドリングアジャストスクリュー
2. スロットルリピボットアーム

- 必要ならばスロットルケーブルを調整します。
- ケーブルブラケットのロックナットを緩めます。ピボットアームの下側のストッパーがアイドリングアジャストスクリューに当たるようにします。次にロックナットを回して、ケーブルに少しの遊びを作ります。
- 調整が終ったら、ロックナットをしっかりと締めて下さい。

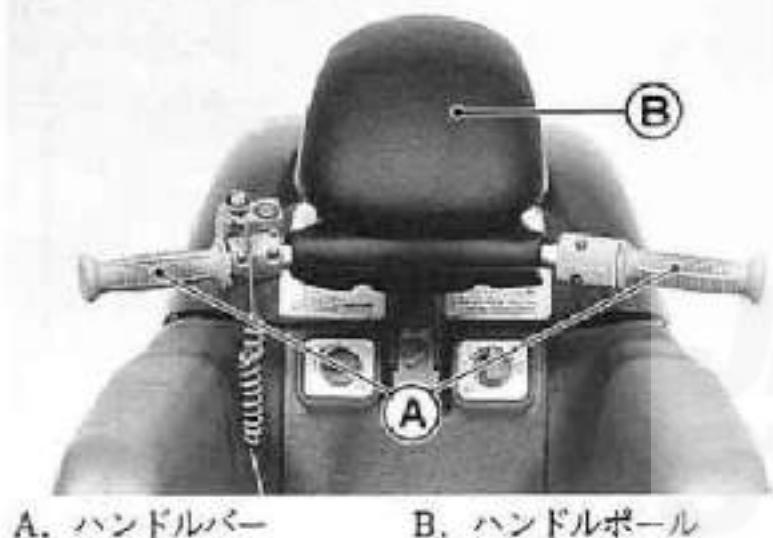


A. スロットルケーブル

B. ロックナット

ステアリングケーブルの調整

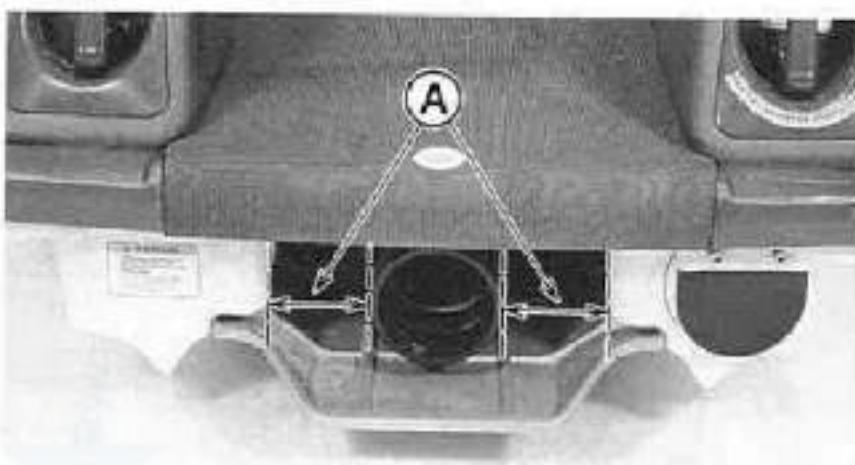
- ハンドルバーを下げる、ハンドルバーを真っすぐ正面に向けます。



A. ハンドルバー

B. ハンドルポール

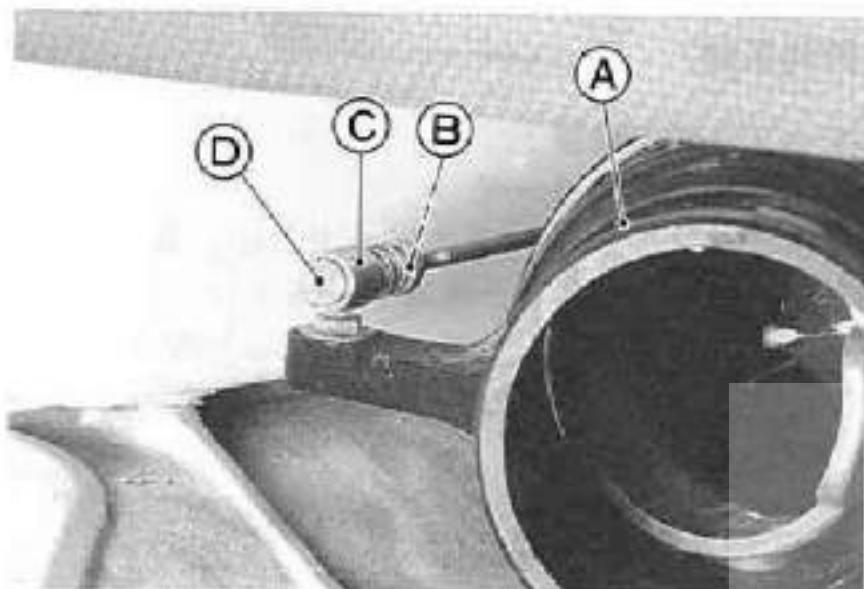
- ステアリングノズルがノズル室の両側から同じ距離にあるか点検します。



A. 等距離

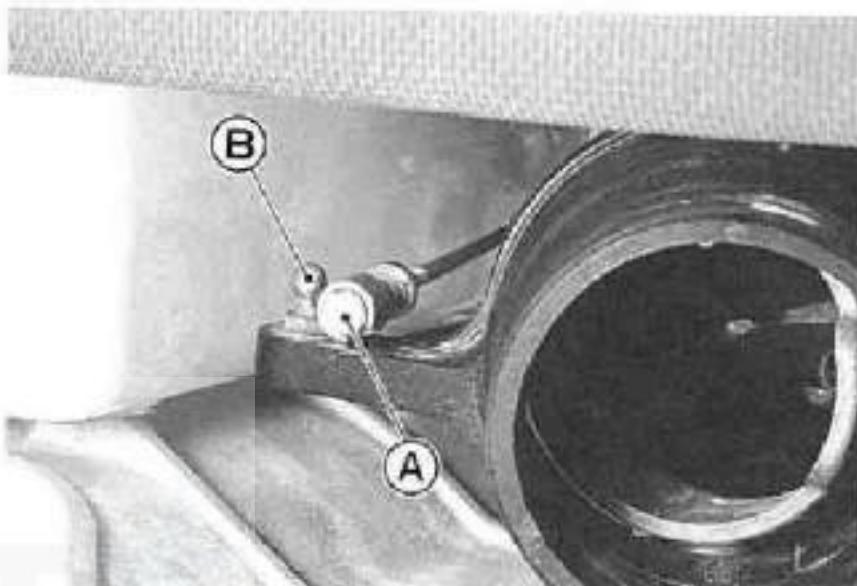
- 同じ距離でなければ調整します。

- ステアリングノズル左側のステアリングリンクのロックナットを緩めます。



A. ステアリングノズル
B. ロックナット
C. スリーブ
D. ボールジョイント

- アウタースリーブをずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- ハンドルバーを真っすぐ正面に向けます。
- ステアリングノズルをノズル室の中央に位置させます。
- リンクのボールジョイントをまわして、穴がボールの位置に合うようにします。



A. ボールジョイントの穴
B. ボール

- ボールジョイントを接続し、もう一度ケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければステアリングリンクのロックナットを締めます。
- もう一つの点検方法として、ハンドルバーを左右にいっぱい切れます。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

ステアリングケーブルの点検

ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられた時は、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で点検を受けて下さい。

〈要 点〉

- ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

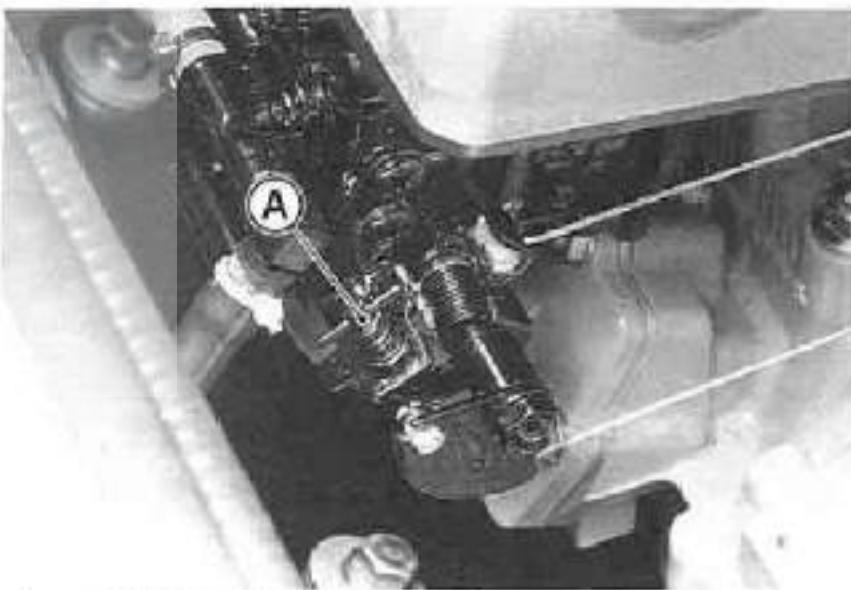
燃料系統

キャブレタの調整：

アイドリングスピード

正常なアイドリングスピードとは、最も低い、しかし安定したスピードを言います。

- アイドリングアジャストスクリューを右へ回すとアイドリングスピードは上がり、左へ回すと下がります。



A. アイドリングアジャストスクリュー

アイドリングスピード

水上……約1,250 rpm

陸上……約1,700 rpm

ミクスチュアスクリュー

キャブレタは出荷前に工場で測定器を使って一つひとつ調整されていますので、すべてのキャブレタに共通する特定のセッティングはありません。そのキャブレタに最適のセッティングがなされた後、キャップが取付けられています。従ってキャップのレバーを動かしたり、キャップを外してミクスチュアスクリューの位置を変えたりしないで下さい。

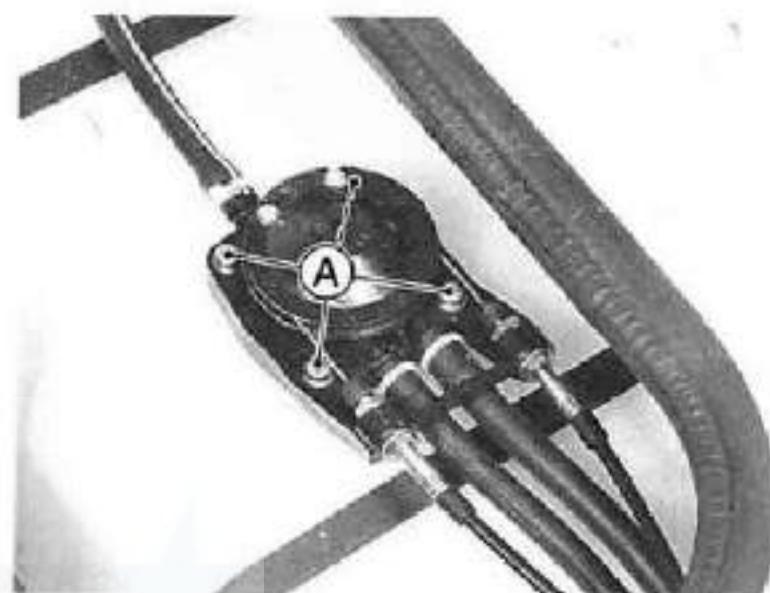
燃料フィルタスクリーン：

ウォータークラフトには、キャブレタにゴミや異物が入るのを防ぐために燃料フィルタスクリーンが付いています。

「定期点検整備表」の規定に従って、燃料フィルタスクリーンを清掃して下さい。

燃料フィルタスクリーンの点検

- 取付けスクリューを外し、燃料アウトレットアッシュを引き出します。



A. スクリュー

▲警告

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタータロックスイッチを左位置にし、禁煙にして下さい。作業する場所が換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。



A. 燃料フィルタスクリーン

- 燃料フィルタスクリーンに損傷や品質の低下がないか点検します。もしあれば交換して下さい。

燃料フィルタスクリーンの清掃

- 燃料フィルタスクリーンを洗浄油で洗い、スクリーンに詰まった汚れはブラシで落として下さい。

▲警告

- フィルタスクリーンの清掃は、通気性の良い、火気のない場所で行って下さい。
- ガソリンとか引火性の強い洗浄油は、スクリーンの洗浄には使用しないで下さい。

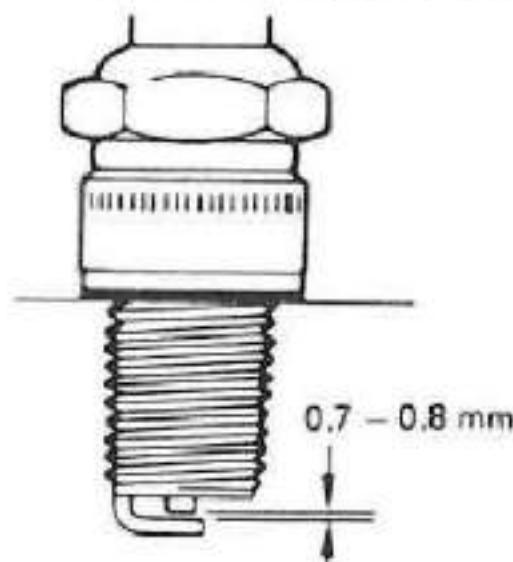
- 燃料アウトレットアッシャー取付け、スクリューをしっかりと締めます。

スパークプラグ

「定期点検整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK BR8ESです。ギャップを0.7~0.8mmに調整して使用して下さい。

ウォーターラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンドヘッド温度は比較的安定しています。従ってエンジンの調子がよく、調整も適切で、適切な混合比のガソリンとオイルを使用すれば、熱価の異ったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱価のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範囲な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用して下さい。



スパークプラグの点検及び交換

●スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を点検します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁体が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

注 意

○過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正して下さい。

●絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物がある時は、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。キャブレタが正しく調整されているか点検して下さい。黒い堆積物が湿って油氣を帶びている時は、オイルのタイプか混合比が不適当と考えられます。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗浄油で清掃します。ギャップが広がっていれば、

0.7~0.8mmに調整します。電極が腐食または焼損していればプラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等、目に見える損傷がある時は、いつでもプラグを交換して下さい。

スパークプラグ締付トルク：2.5~3.0kg·m

バッテリ

このウォータークラフトはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用しています。従って、バッテリ液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリにバッテリ液がいったん入れられたら、密封栓を外さないで下さい。またこのウォータークラフトは、MFバッテリのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリと交換しないで下さい。

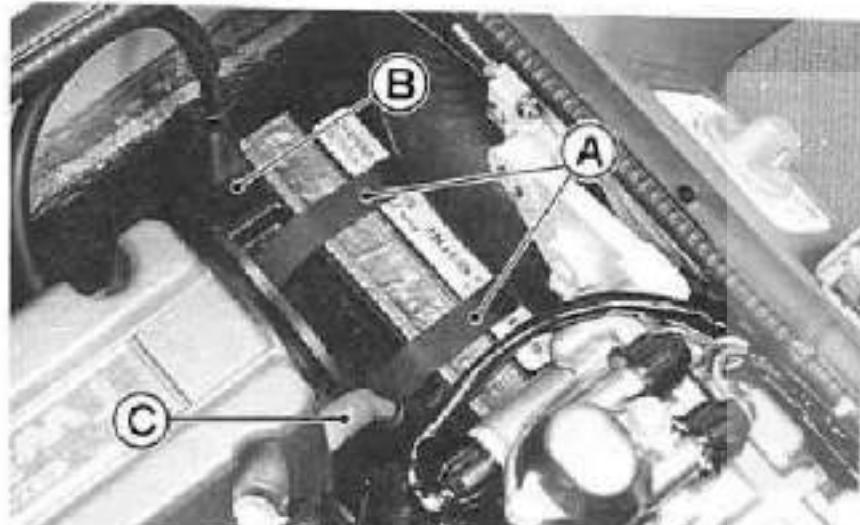
注意

- 密封栓は絶対に外さないで下さい。バッテリが損傷します。
- バッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用下さい。違う型式のバッテリを使用すると、電気系統が正しく機能しません。
- 使用済みのバッテリを廃却する場合は、カワサキのウォータークラフト“ジェットキー”的販売店にご相談下さい。

〈要点〉

- MFバッテリを補充電するときは、バッテリのラベルの指示に必ず従って下さい。

バッテリの取外し



A. ゴムバンド
B. 黒リード線（アース）
C. 赤リード線

- 最初にバッテリから黒色のリード線（アース）を外します。
- 次に赤色のリード線を外します。
- バッテリを固定している二本のゴムバンドを外します。
- バッテリを取り出します。
- ターミナル部に汚れや腐食があるときは、ぬる

ま湯を注いで拭いて下さい。

- 腐食が著しい場合は、ターミナル部を取り外し、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、ターミナルに耐水グリースを薄く塗っておきます。

バッテリの取付け

- バッテリを取り外した時と逆の順序で取付けます。
- バッテリを接続した後、ターミナルに耐水グリースを塗ります。

▲警告

- バッテリリード線の取り付けが緩むと火花が発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡する恐れがあります。
- バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせて下さい。

注意

- バッテリの（+）と（-）を逆に接続しないで下さい。レギュレータや整流器が損傷します。

潤滑

すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータークラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑回数については、「定期点検整備表」及び「乗る前の点検項目」を参照して下さい。

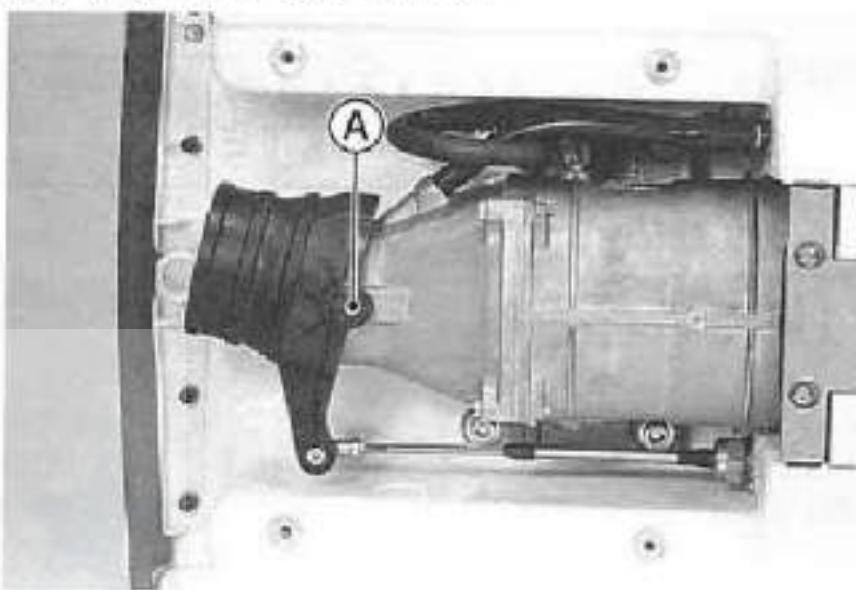
- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。

チョークケーブル及びスロットルケーブル



ケーブルルーバを使ってケーブルの潤滑をする

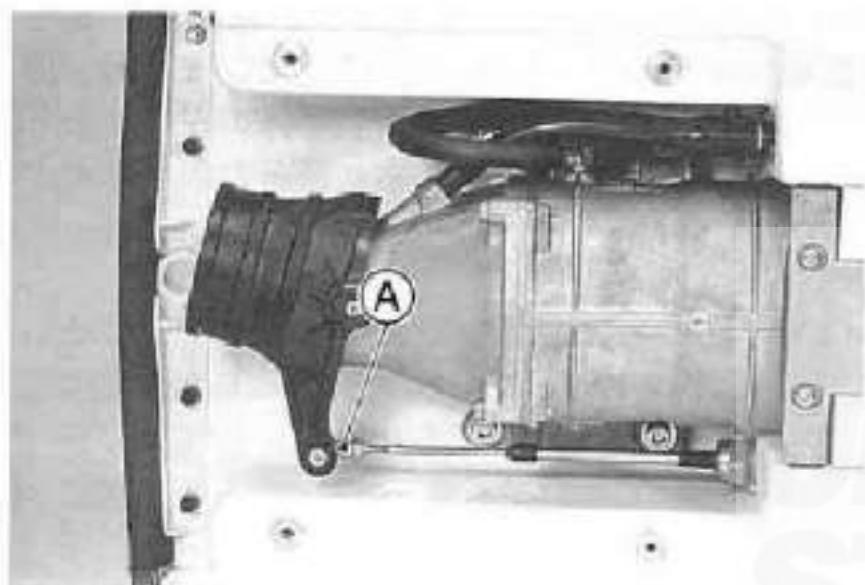
ステアリングノズルビット



A. ノズルビット

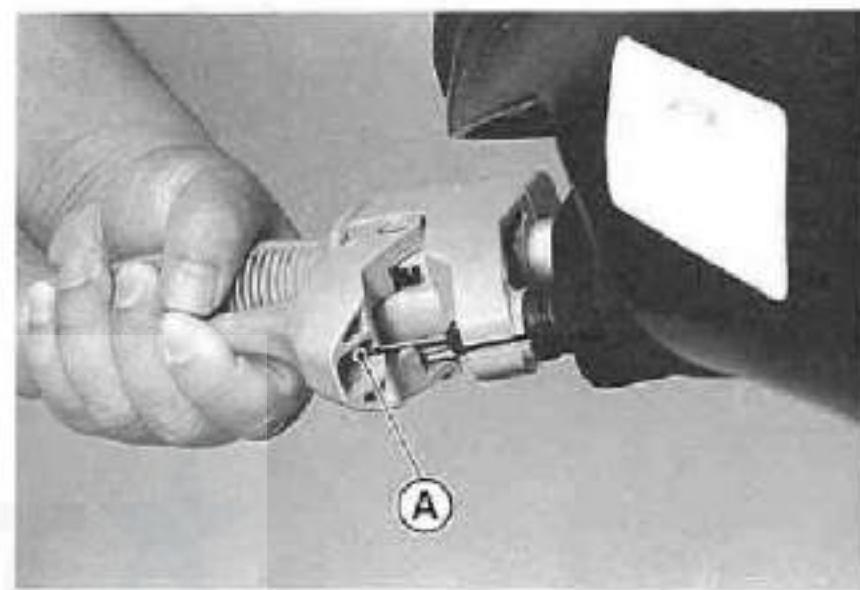
●下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。

ステアリングケーブルボールジョイント



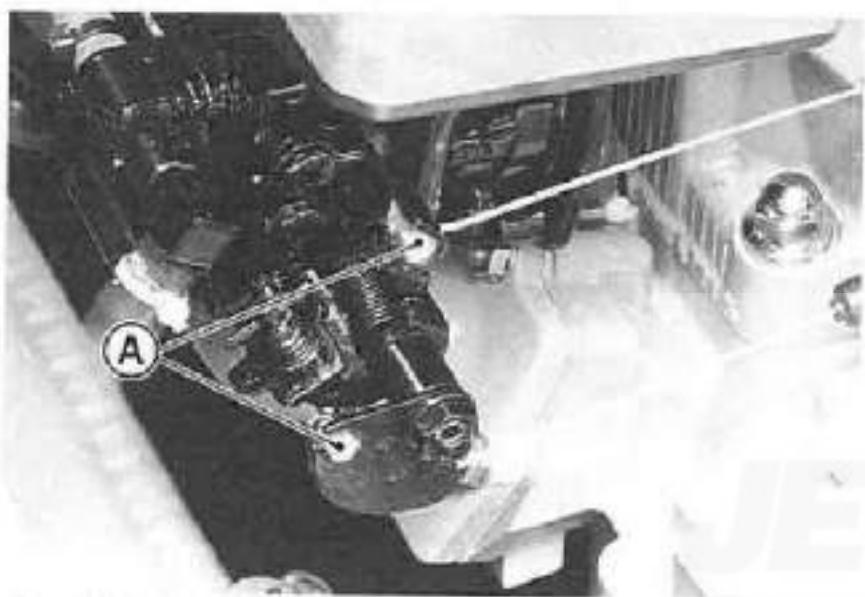
A. ボールジョイント

スロットルケースのケーブル取付部



A. グリースを塗布

キャブレタのスロットルケーブル取付部及び チョークケーブル取付部



A. グリースを塗布

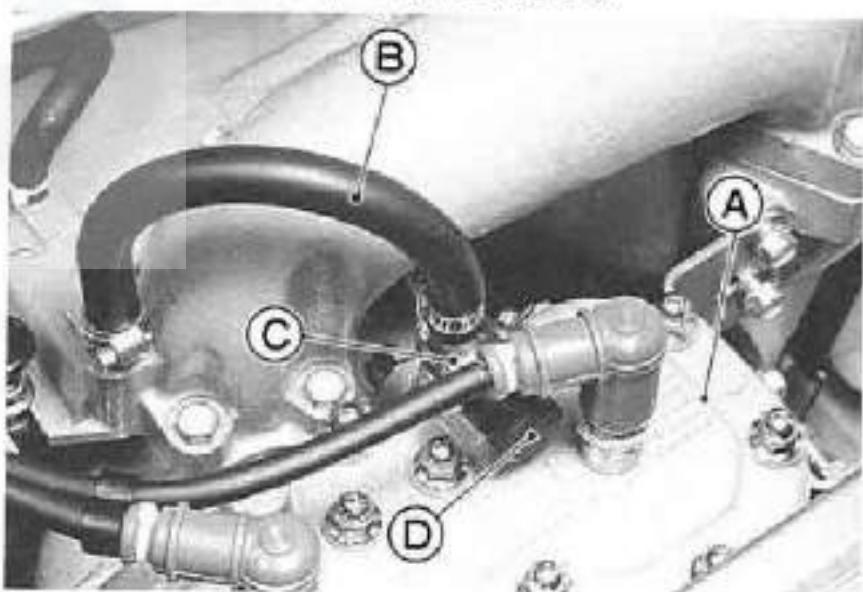
注 意

○ハンドルバー・ビボットの分解と潤滑はウォータークラフトの販売店で行なってもらって下さい。

冷却系統の洗浄

冷却系統に砂や塩分が堆積するのを防ぐため、時どき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期点検整備表」に従って行なうか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の左側にあるバイパス出口から出てくる水が減ったときはすぐに行なって下さい。

- シリンダヘッドとエグゾーストパイプをつないでいる冷却ホースのシリンダヘッド側の取付部に、ゴムのキャップがあります。



A. シリンダヘッド
B. 冷却ホース

C. クランプ
D. キャップ

- クランプをゆるめてキャップを外し、そこに水道のホースを接続します。



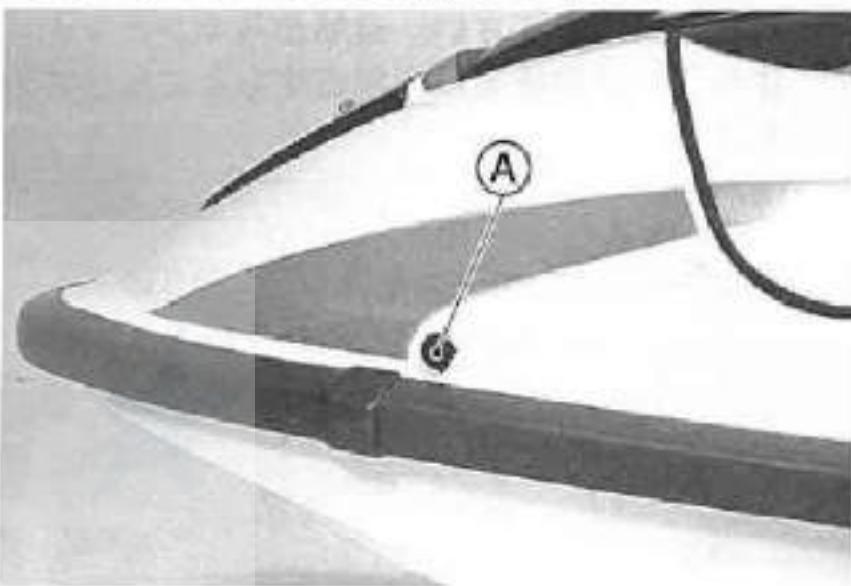
A. 水道ホース

- 水道の蛇口を開ける前に、エンジンを始動し、アイドリングさせます。

注 意

○ 水を流す前に必ずエンジンをかけておいて下さい。先に水を流すと、エグゾーストバイパスを通ってエンジン内に水が逆流して、内部を損傷するおそれがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船の左側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節して下さい。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回ふかせて排気系統から水を排出します。

注意

- 冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に損傷をひき起こすもとになります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取付けてしっかりとクランプを締めます。

ビルジ系統の洗浄

詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期点検整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄して下さい。

- プラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外して下さい。

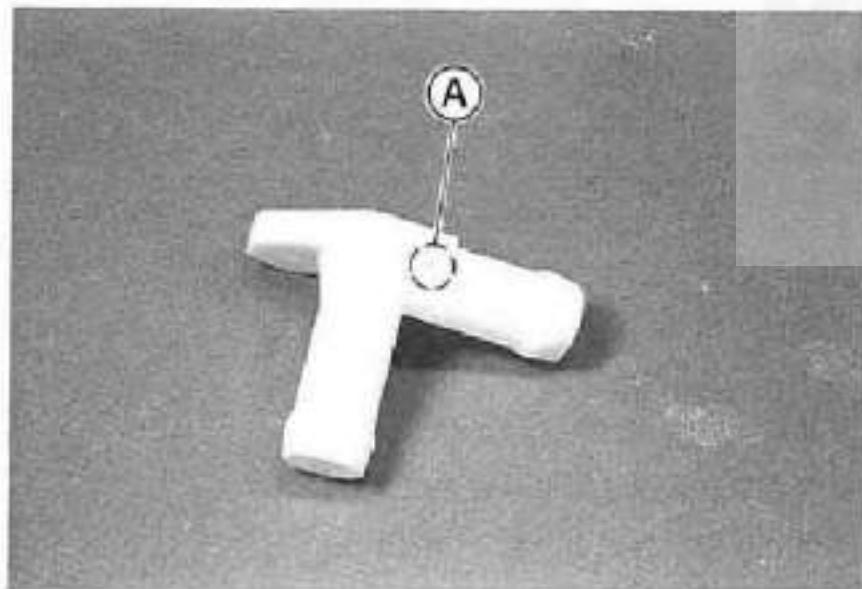


A. ブリーザ

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジン室内に入りますが、たくさんたまらないようにします。ウォータークラフトの横に

保護パッドを置き、船を左に傾けてエンジン室内の水を出します。

- 船体の隔壁側から出ているもう一方のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。
- プラスチックのブリーザにホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな孔が詰まっていないか確かめて下さい。もし孔が詰まっているば、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通って水がどんどんエンジン室内に入ってくることがあります。ブリーザを外して掃除して下さい。



A. ブリーザの孔

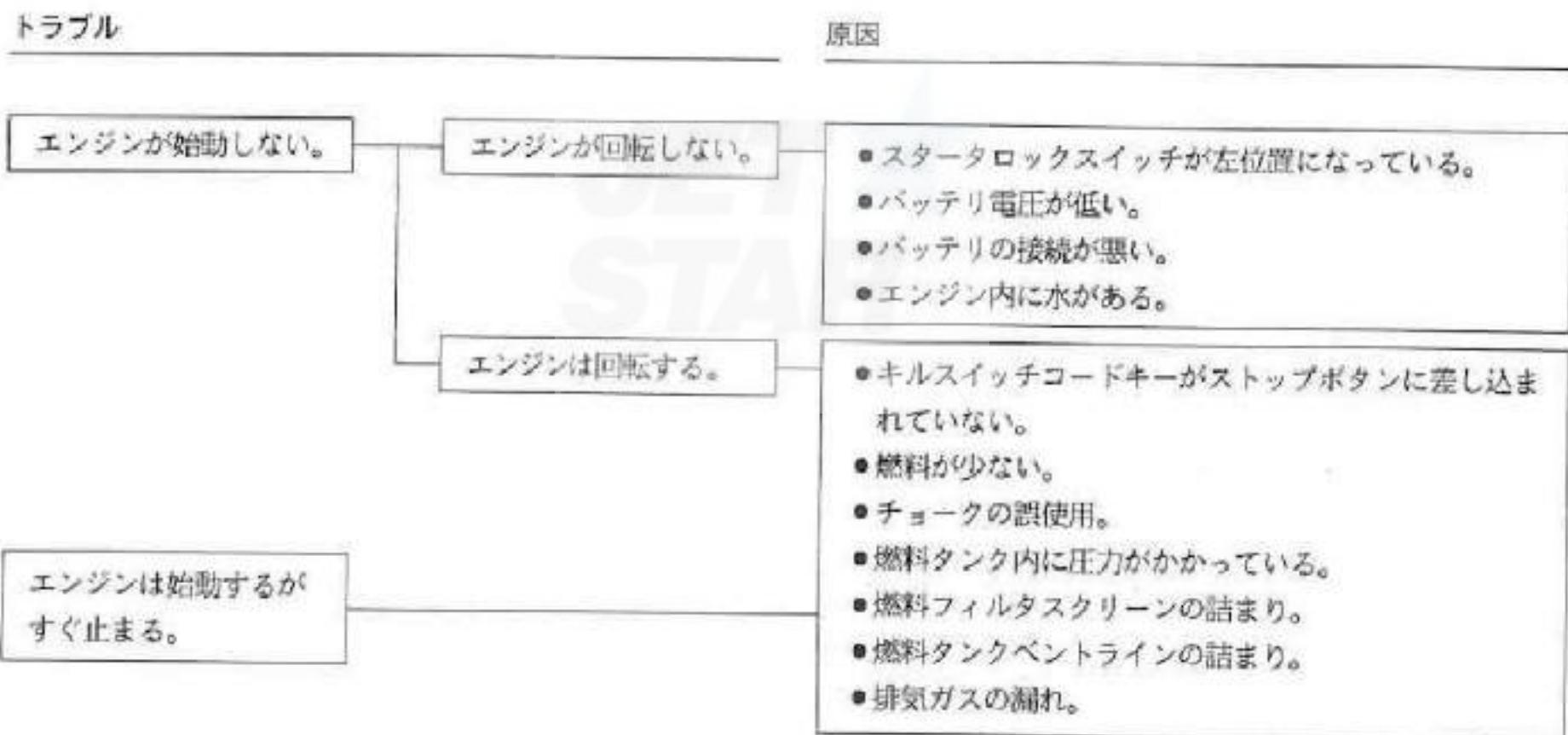
- ビルジホースをもと通りに接続します。

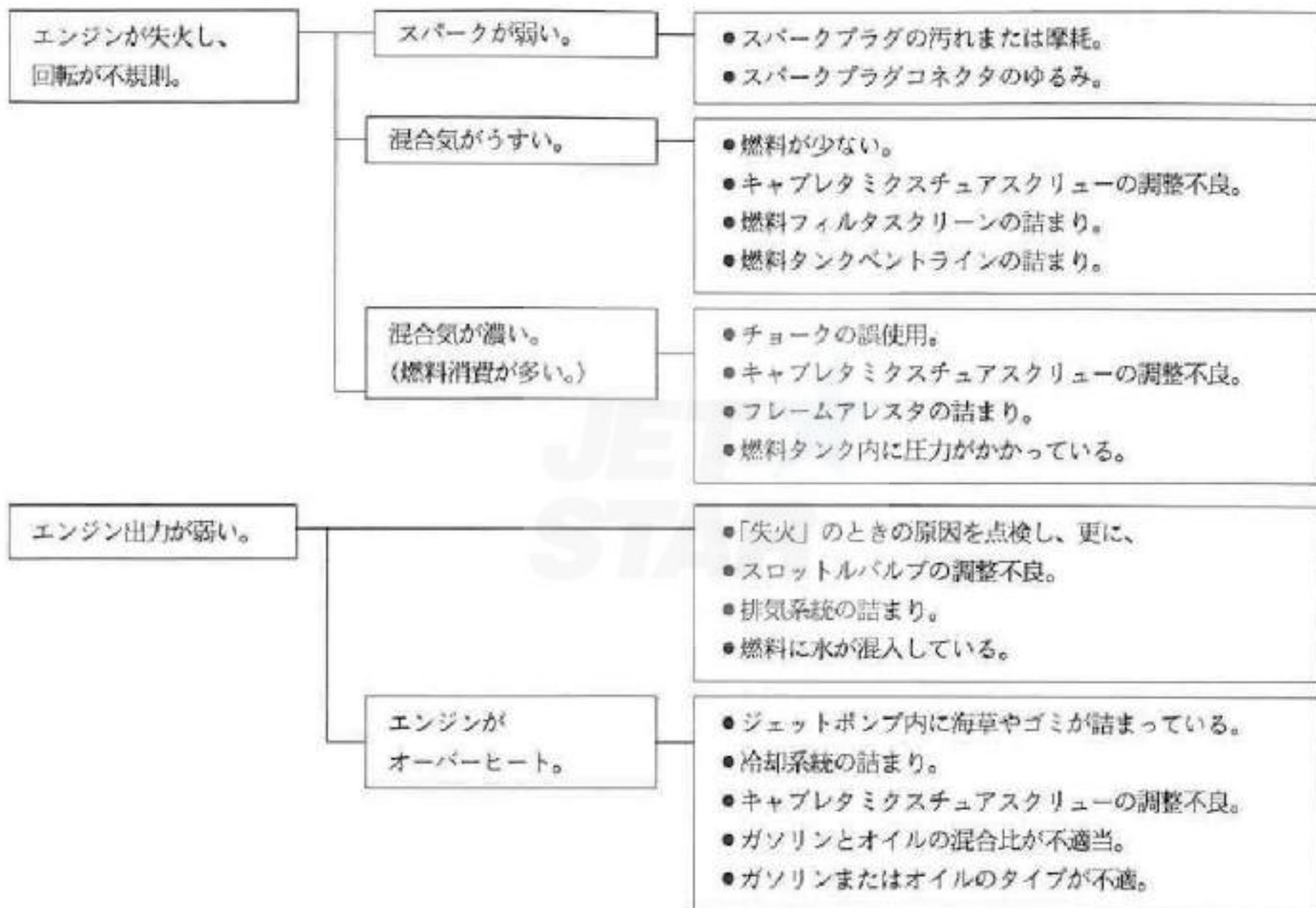
〈要点〉

- ウォータークラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧縮空気を吹き込んで下さい。(「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。)

トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータークラフトのトラブルが確定できないときは、ウォータークラフトの販売店に相談するか、サービスマニュアルを参照して下さい。





ノッキングを起こす。

- ガソリンの品質不良。
- ガソリンとオイルの混合比が不適当。
- スパークプラグの熱価が高過ぎる。

ステアリングがかたい、
または調子が悪い。

- ステアリングピボットの油切れ。
- ステアリングケーブルが損傷、または取りまわしが不適当。

▲警告

○ステアリング装置に故障があれば非常に危険ですので、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でよく調べてもらって下さい。

船舶検査

船舶検査

ウォータークラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中の3年毎に行う中間検査があります。

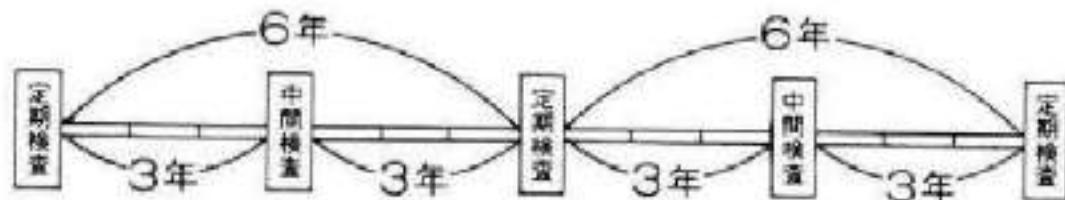
- 定期検査

定期的に行う精密な検査

- 中間検査

定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1カ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

船舶検査証書など合格証書類

(1) 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、①船舶検査証書
②船舶検査手帳 ③船舶検査済票（年票と番号票
を各2枚）が渡されます。

上記①および②の証書類は、ウォータークラフト
を使うときには必ず船内に備えて下さい。また、
③の検査済票（通称「船検ナンバー」）は、ウォー
タークラフトの両側の外から見やすい位置に必ず
貼りつけて下さい。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

(2) 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書
と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票
1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査
に合格した小型船のしるしですから、これを左舷
の船舶検査済票の近くに貼って下さい。

航行区域

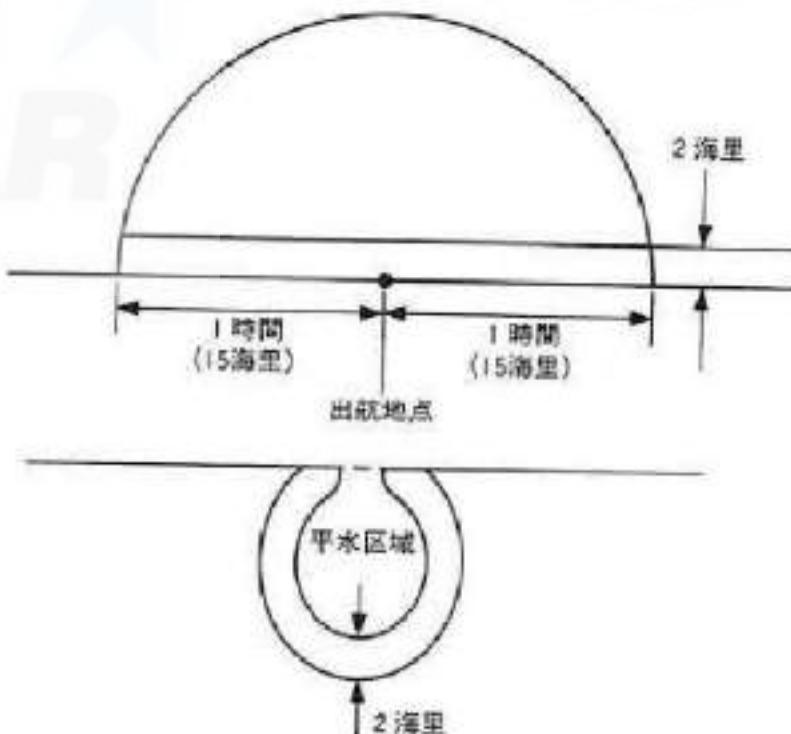
法律（船舶安全法）により、ウォータークラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

- 注：1) 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
2) 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

沿海区域で、

- (1) ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7km）以内の水域、および
- (2) 船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7km）以内の水域。



母船に乗せて使用する場合

沿海区域で、

- (1) 母船から半径2海里（約3.7km）以内の水域、
- (2) ウォータークラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7km）以内の水域、および
- (3) 船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7km）以内の水域。

注意

- 母船に搭載してウォータークラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

※周辺の人たちに迷惑をかけないために、次の事を守って下さい。

- 遊泳者のいる近くでは乗らないで下さい。
- 人家の近くでは乗らないで下さい。
- 他の人に迷惑をかける騒音は出さないで下さい。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないように注意して下さい。
- 航走中の他の船に近づかないで下さい。
- 漁場へは乗り入れないで下さい。また、操業中の漁船には近づかないで下さい。
- 乗り入れ禁止区域には入らないで下さい。
- 指定区域内では制限速度を守って下さい。

JET[®]
STAR

JS750-C4

JET
STAR



川崎重工業株式会社 汎用機事業本部

Part No. 99921-1756-01